

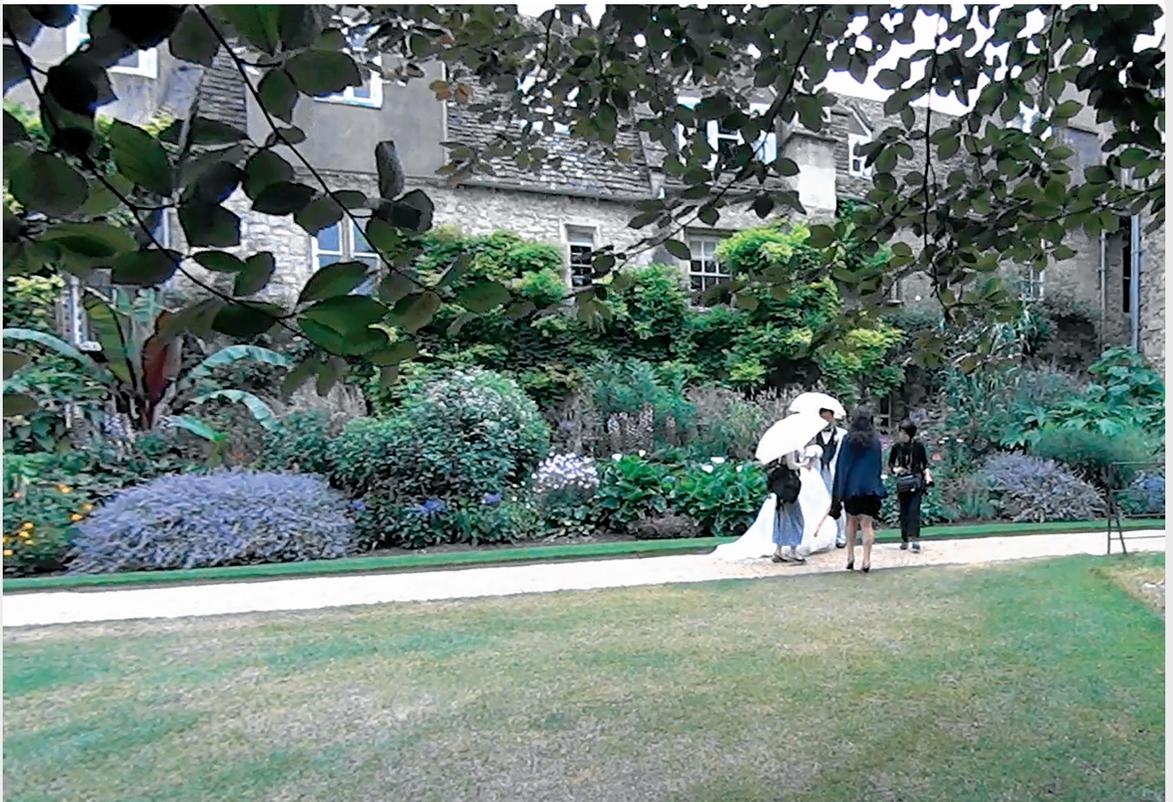
# 善隣

No.492 通卷759

2018年（平成30年）6月1日発行（毎月1日発行）

2018

6





戸部守さん



長野宏太郎さん



橋本公佑さん



上野京さん



前列中央：馬場由紀子先生

陶々会 吟行  
(2018年5月2日)

善 隣 目 次 2018年 6 月号

公開講演会記録

アベノミクスの評価  
 —異次元金融緩和を中心として……………齊藤壽彦 2

習近平の新統治モデル ……………城山英巳 9

日中の歴史的関係を雅楽の側面から垣間見る ……………長谷川景光 17

会員彼是

中国地方観音寺霊場めぐりの旅……………岡 和良 21

中国ウォッチング

……………編・訳 上松玲子 28

コラム

〈腰折れ文〉十、……………渡邊澄子 30

陶々俳壇

……………馬場由紀子選／橋本公佑 31

協会通信・会員だより・同好会だより …………… 32

2018年6月の行事予定 …………… 33

みんなの写真館

…………… 32

善 隣 第492号 通巻759号

2018 (平成30) 年 6 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5  
 一般社団法人 国際善隣協会  
 TEL 03 (3573) 3051  
 FAX 03 (3573) 1783

発行人 矢野一彌

印刷所 (旬)におんプレス  
 定価 一部400円 年額4,800円  
 振替 00120-0-145956  
 国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345  
 ©禁無断転載

# アベノミクスの評価

## ——異次元の金融緩和を中心として

千葉商科大学名誉教授 齊藤壽彦



### はじめに

2012年12月に発足した第2次安倍内閣はアベノミクスと呼ばれる経済政策を採用した。この政策は「3本の矢」という政策手段を用いて日本の経済のデフレ状況を脱却させようとするものであった。その「第1の矢」は「大胆な金融緩和」であった。「第2の矢」は「機動的な財政政策」であった。これは財政支出の増大、インフレターゲット政策、積極的な財政支出の採用を意味していた。「第3の矢」は「民間投資を喚起する成長戦略」であった。これは法人実効税率の引下げ、労働規制の緩和などにより民間投資を喚起しようとするものであった。

2015年9月24日には安倍首相は新たなアベノミクスを採用することとし、「新・3本の矢」を提唱した。これはすべての人が活躍できる「1億総活躍社会」を目指すものであった。

新・3本の矢の第1の矢は「希望を生み出す強い経済」を作り出すというものであった。これは旧3本の矢を一つにまとめたものであり、デフレ脱却と成長率の引上げ、強い経済を目指すという旧3本の矢を引き継ぐものであった。新・3本の矢の第2は「夢をつむぐ子育て支援」であった。

新・3本の矢の第3は「安心につながる社会保障」であった。

本日はアベノミクスの内容と政策効果について、その第1の矢とされた大胆な

金融緩和、異次元の金融緩和を中心として検討したい。

現在の金融政策は従来の理論ではやっていけないとされていたことが行われている。金融は实体经济に規定されており、金融手段だけでは経済を発展させることができない。にもかかわらず、金融に過度の期待を抱き、超金融緩和政策によって日本のデフレを脱却させようという政策が現在採用されている。これでは経済が好転するはずはないのであるが、それがうまくいかないとなると、そのやり方が手ぬるいということ、さらなる金融緩和が図られてきた。それが副作用をもたらすということが明らかになると、日本銀行は根本的な政策転換を図るのではなくてさらに部分修正を図るということ

大胆な金融緩和政策を継続している。現在の金融は極めて複雑化しており、一般の人にとっては日本銀行がどのような政策を行っているのかが理解できなくなっている、一般の人だけではなく、金融の専門家にとっても現在の金融政策を理解することが困難となっている。金融を研究している人の間において、現在の黒田日銀総裁の持っている異次元的金融緩和についての評価が分かれている。現在の金融政策を理解するには金融に関する本や雑誌を読んだだけではだめで、日本銀行のホームページや新聞を熟読するとともに、日本の生産や流通についての知識を動員するとともに、世界の情勢を読み解き、世界の中の日本の位置づけを行い、その中で日本の金融を考える必要がある。

このように現在の日本銀行の金融政策を理解することが極めて困難となっているが、金融に関する理論が今日無用になっているわけではない、金融に関する基本法則は、現実がそれと離れるようになってきたとしても、基本的には経済法則として貫かれている。人類が歴史から学んで作り上げた金融理論を学ぶことが複雑な金融の現実を理解する導きの糸となるのである。本日は通貨の基礎理論を皆さんに紹介し、それに基づいてアベノミクスの

第1の矢とされた日本銀行の大胆な金融緩和政策の内容の紹介とその政策評価を行いたい。

## 1 「量的・質的金融緩和」政策

アベノミクスの政策手段である「3本の矢」の第1の矢として、2013年1月に大胆な金融緩和政策が採用された。すなわち、同月22日に政府（内閣府と財務省）および日本銀行は政策連携に関する共同声明を発表し、日本銀行は、物価安定の目標（インフレ目標）として消費者物価の対前年比2%上昇を掲げ、金融緩和政策を推進して、早期にこの実現を目指すこととした。

2013年4月に、日本銀行は、デフレ脱却のために「量的・質的金融緩和」という政策を採用することを決定した。

これは、第1に、強く明確なコミットメントを行おうとするものであり、2年以内に、対前年比2%の「物価安定の目標」（物価上昇）をできるだけ早期に実現しようとするものであった。第2に、資金量などを増大させることを操作目標として、量・質ともに次元の違う金融緩和を実施（異次元的金融緩和）するというものであった。すなわち、「ベースマ

ネー」または「ハイワードマネー」と呼ばれる「日本銀行券」、「硬貨」および「日本銀行当座預金」の量を増加させるとともに、国債や上場投資信託（ETF）などの金融資産をこれまで以上に買い入れることとした。第3に、わかりやすい金融政策を実施するというものであった。第4に、物価安定目標実現まで金融緩和を継続するというものであった。

だがこのような政策を実施しても、デフレ脱却という政策目標は達成できなかった。そのためにその後、「量的・質的金融緩和」に部分修正が加えられたが、やはり物価上昇率2%という目標は達成できなかった。そこでこの政策に大きな変更が加えられることとなった。

## 2 「マイナス金利」政策

日本銀行は、2016年1月29日に「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を決定した。

マイナス金利とは資金提供者が利子を支払うものであるから、ありえない政策であると考えられていた。このような政策が採用されるに至ったのである。この政策を聞いた人の中には預金金利がマイナスになると考えた人がいたが、実際に

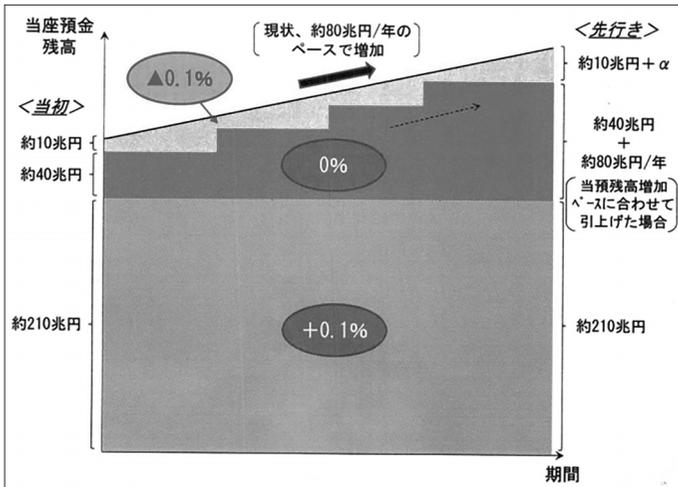
はそのような政策は採用されなかった。日本でそのような政策を採用したならば、預金の取り付けが起きる恐れがあった。日本のマイナス金利政策は日本銀行への民間銀行の預金金利の一部にマイナス金利を適用するというものであった。この内容は次のようなものであった。

日本銀行は、今後は、「量」・「質」・「金利」の3つの次元で緩和手段を駆使して、金融緩和を進めていくこととする。まず第1に、日銀当座預金を次のような3段階の階層構造とする。①「量的・質的金融緩和」の下で各金融機関が積み上げた既往の残高については、従来通り、プラス0・1%の金利を適用する。②所要準備額に相当する残高等（マクロ加算残高）については無利子とする。③①と②を上回る部分（政策金利残高）に、マイナス0・1%のマイナス金利を適用する。

第2に、「量」的政策である金融調節方針については、マネタリーベースが、年間約80兆円に相当するペースで増加するように金融調節を行う。

第3に、「質」的政策である資産買入れ方針に関しては、長期国債について、保有残高が年間約80兆円に相当するペースで増加するよう、買入れを行う。買入れの平均残存期間は7〜12年程度とする。

図1. 3段階の階層構造



(出所) 黒田東彦『「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」への疑問に答える』2016年3月。

ETF（上場投資信託）およびJ-REIT（不動産投資信託）について、保有残高が、それぞれ年間約3兆円（7月29日に約6兆円に倍増することを決定）、年間約900億円に相当するペースで増加するよう買入れを行う。CP（コマーシャル・ペーパー）等、社債等について、それぞれ約2・2兆円、約3・2兆円の残高を維持する。

第4に、日本銀行は、2%の「物価安

定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を継続する。

この政策の採用当初の日本銀行当座預金の構造を図解すれば図1のようになる。このような金融政策は、金融機関の収益などに問題をもたらすものであった。

すなわち、利子・利回りのカーブ（イーールドカーブ）のフラット化（長期金利・利回りの低下）が金融機関の利ざやの圧迫や保険・年金の運用利回りの低下をもたらすものとなった。このことについては後で立ち入って述べてみたい。

2016年9月21日に日本銀行は「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」政策を修正し、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入することを決定した。

この新政策の特徴は、第1に、政策の誘導目標を変更したことである。従来の金融政策がマネタリーベースの増大を目指す「量重視」の政策であったのに対して、新たな政策では「量重視」だけでなく「金利重視」政策も採用された。これにより国債買入額を柔軟に決めることが可能と

なり、マネタリーベースの短期的な減少が容認された。

第2に、長短金利の両方を操作する方式である「イールドカーブ・コントロール」(長短金利操作)が採用された。

実質金利を下げるという効果は引き続いて追求されたから、短期金利については引き続き、日本銀行の政策金利残高にマイナス0・1%のマイナス金利が適用された。

長期金利については、10年物国債金利、利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債の買入れを行うこととなった。2%の「物価安定の目標」に向けたモメンタム(勢い)を維持するように、最適なイールドカーブ(短期・長期の金利、利回り)の形成を促すこととなった。このイールドカーブ・コントロールで注目すべき点は、長期金利の目標を短期・中期金利よりも高めにすることである。10年を超える国債の金利、利回りがプラスの水準となることとなった。これにより、保険会社等の長期資金運用において利益が確保できるようになった。

第3に、予想物価上昇率を引き上げるために、期待形成を強める手段を導入することが必要であるとされた。日本銀行は「フォワード・ルッキングな期待形成」(將

来を考えた期待)のために「オーバーシュート型コミットメント」を行うこととした。すなわち一時的には物価上昇率が2%を超えたとしても、さらに通貨供給量(マネタリーベース)を増やし続けると約束した。第4に、物価目標の達成目標が撤廃された。「2年で2%」から「2%を安定的に超えるまで」に変更された。

第5に、日本銀行が金融政策の手段として金利政策を再評価したとしても、量的調整の考え方が残された。

### 3 異次元の金融緩和の影響―効果限界、副作用―

大胆な金融緩和政策は、金利低下に一定の効果を及ぼした。借入を行っている企業や国債発行を行う国家にとっては金利負担の軽減がもたらされた。

為替相場の低落への影響もあった。円安には効果があつた。円安は大手輸出関連企業に大規模な利益をもたらした。ただし、円安が急速に進んでも、輸出数量はあまり増えていない。円安は輸出奨励効果を発揮しなかった。また、円安は、輸入に関係した業者に打撃を与えるものとなった。

株式価格の上昇への影響もあつた。ア

ベノミクス、異次元の金融緩和は、短期的には、将来の株式価格上昇の期待(予想)を強めた。その予想が株価上昇に寄与したと考えられる。株高には効果があつた。ただし当初の株高は企業業績の向上を反映したものではなかった。最近の株高は金融緩和だけでなく企業業績の向上も反映している。

日本銀行は2013年4月に2年以内に物価上昇率2%を実現するという政策目標を立てたが、2009年以降下落が続いていた物価は2013年に入って下げ止まり、2013年後半に上昇基調にはいった。この背景には、2012年秋以降の為替の円安方向の動きと2014年4月の消費税引上げの影響があつた。予想物価上昇率の上昇や経済全般の需給の改善も物価の緩やかな上昇に寄与した。だが、2年以内に対前年比2%で物価を引き上げるといふ黒田総裁の約束は果たされなくなった。第1の矢の意図と現実とは乖離していた。大胆な金融緩和政策は物価安定目標を達成できなかった。

アベノミクスのもとで大手企業を中心として企業の内部留保が増大した。だがその賃金上昇効果は乏しかった。消費の増大あるいは生産性の向上などにより利潤増大の状態が継続する見通しが立た

なければ、企業が名目賃金を引き上げるのは困難であった。

アベノミクス下で銀行貸出増大の動きがあった。だがアベノミクスによる本格的な国内設備投資の上昇効果は現れてこなかった。

金利低下は設備投資の増大とはほとんどむすびつかなかった。その投資奨励効果はきわめて限定されたものであった。最近では投資増大傾向がみられるが、これは金利以外の要因によるところが大きいと考えられる。

金融政策は財政ファイナンスとしての性格を併せ持つようになり、財政信認と日銀信認を毀損するおそれを招来するという深刻な副作用をもつものでもあった。異次元的金融緩和が物価上昇や設備投資助長、これらによる景気回復に効果がほとんどなかった理由について詳しく述べてみたい。

金融を理解する上では、預金が通貨として機能するということを重視しなければならない。マネーと言え人は銀行券や硬貨を頭に浮かべるであろうが、これらの「現金通貨」(キャッシュ)は小口取引における決済手段として用いられている。

大口取引においては計算に手数がかかり、運搬にも手数と危険を伴う現金を用いる

ことはほとんどない。生産者と卸売業者、卸売業者と小売業者との取引においては「預金通貨」が用いられる。また、今日では消費者の支払いにおいても預金通貨が用いられるようになっていく。

この預金通貨は、債務者等が、銀行にある自らの預金を、支払いを受ける人(債権者)の預金に振り替えるということを通じて、支払いの手段として機能するものである。今日、消費者の間でも、現金決済だけでなく、自分の預金を支払い対象者の口座に振り替えるという手続きを通じて支払いを行ったり、電気料金等の自動引き落としやクレジットカードを利用して支払いを行うようになっていくが、これらは預金通貨を利用した決済なのである。

マネーの銀行からの供給の主要なルートは、貸出を通ずる供給である。銀行からお金を借りたい人が銀行に来て、借入れを申し込むと、銀行は借り手の預金口座に預金金額を記入して、貸出を行う。これは預金者が銀行にお金を預けたのではない、貸出の手段としての預金記入である。借り手はこの預金を支払いに用いることができる。この追加記入された預金の多くは、支払い対象者の預金口座に振り替えられる。税金の支払いや賃金の

支払いなどのために現金が必要となった場合に初めて、現金が銀行から引き出される。銀行への借入れ申し込みがなければ、マネーが市場に出回ることはいらない。企業は、金利がいかに低くても、商品が売れて利益が確保できるという見通しがなければ、お金を借りて生産や仕入れを拡大しようとはしない。1990年代末以来続く非正規雇用の増大に伴う賃金水準の低下は、国内の消費需要を低下させた。これがデフレの最大の要因であって、日本銀行のマネー供給の不足がデフレの原因ではない。

日本銀行が関与する「ベースマネー」または「ハイパワードマネー」(「日本銀行券」+「硬貨」+「日本銀行当座預金」)の中心は、日本銀行に預けている民間銀行の当座預金である。ベースマネー供給の主要ルートは、今日では日本銀行が民間銀行から国債を買い入れ、その代金を銀行の日銀当座預金勘定に振り込むという方式である。これにより民間銀行の日銀当座預金勘定が膨大な規模に達している。銀行は企業からの借入資金需要がなければこの日銀当座預金を引き出して使うことはない。今日、日銀が国債買入れによって生じた大量のベースマネーが日本銀行に滞留している。それが市場に出

回るということは極めて限定されているのである。いくら日本銀行がベースマネーの供給を増やしたとしても、それが市場で用いられなければ、物価上昇や設備投資の増大には繋がらない。賃金の上昇により国内需要が増大し、設備投資需要が増大し、企業の借入れ資金需要が増大し、日本銀行当座預金を引き出されるようになって、結果として、ベースマネーの供給が物価上昇や設備投資増大につながるということになるのである。日本銀行がベースマネーの供給を増やそうとしても物価上昇や設備投資増大につながらないという現実、このような理論を反映しているものといえるのである。

#### 4 マイナス金利政策の効果と限界、副作用

次にマイナス金利政策の効果と限界、副作用について立ち入って述べてみたい。マイナス金利政策の効果には限界があった。実質金利の引下げがある程度実現したとすれば、これが借入コストの抑制を通じて、設備投資を喚起すると言われている。だが、設備投資に影響を与える要因としては、金融政策ではカバーできない部分が多い。設備投資の伸びには力強

さが欠けている。

マイナス金利導入後、円安効果は出ていない。円安が輸出拡大に与える効果はあまり期待できない。

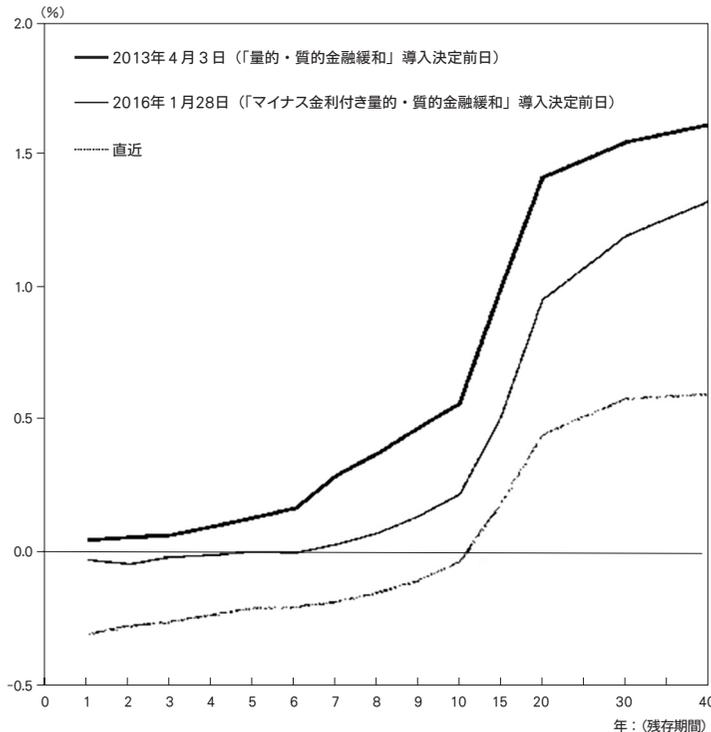
消費者物価を2%上昇させることを日銀総裁がコミットメントして企業や人々の期待に働きかけても、企業や人々が日本銀行を信頼・信認してそれを実際に期待するということがなければその効果は発揮されない。

マイナス金利政策は、効果が限定されていただけでなく、副作用、弊害を伴うものであった。この副作用には金融市場機能、日本銀行、退職給付債務・企業年金運用・公的積立金運用、財政におよぼす悪影響などもあるが、本日は金融機関（銀行以外に生命保険会社を含む）に関連

するものについて述べておく。

日銀当座預金金利の一部にマイナス0.1%の金利が付与されたことによる民間銀行収益への悪影響は無視できない。日銀当座預金利子収入の減少もあるが、特に利ざや減少による銀行・生命保険経営への打撃が大きかった。マイナス金利政策が採用されると、長期国債金利の利回りが日銀の思惑以上に急激に下がり、長

図2. イールドカーブの変化



(出所) 日本銀行「『量的・質的金融緩和』導入以降の経済・物価動向と政策効果についての総括的な検証」2016年9月。

期の利回りまでもマイナスに下がった。本来であれば、リスクの大きくなる長期金利・利回りの方が短期・中期の金利・利回りよりも高くなるが、利回りの推移図(図2)をみれば、マイナス金利導入後において、短期・中期の金利・利回りと長期の金利・利回りととの差が縮小していることが明らかとなる。マイナス金利付き量的・質的金融緩和によって国債のイールドカーブ(利回り曲線)は全般的に大きく水準が低下し、ついに10年物前後の国債まで利回りがマイナスとなった。このような国債利回りの低下によって、生命保険会社には、金利が高い時に引き受けた保険契約によって逆ざやが発生するリスクが高まった。金融機関・保険会社の経営は大きな打撃を受けることとなったのである。

その後、前述のように長短金利調整によるイールドカーブの修正が行われるようになったが、マイナス金利政策そのものは依然として継続している。

銀行は本来の業務である預金金利と貸出金利との利ざやの確保による収益確保が極めて難しくなっている。大手金融機関は海外業務の拡大や証券業務への取り組みによって利益を得ようとしているが、地域金融機関は貸出金利水準の超低位化

の下で、経営上の困難に直面しているのである。

マイナス金利は、家計に悪影響を及ぼす側面もあった。借入金利が低下する住宅ローンの利用者については、借換えによる金利負担軽減というメリットがあった。だが、返済を伴う住宅ローンの新規借入れの増大には結びつかなかった。

住宅ローンを除いて、定期預貯金金利の引下げ、MMF(公社債投資信託)の募集停止・資金返還により、多くの人々が損失を被ることとなった。

## むすび

アベノミクスの政策効果は極めて限定されていただけでなく、副作用を有するものでもあった。このことが異次元的金融緩和の検討を通じて明らかとなった。日本の経済を立ち直らせることは、日本の銀行の異次元的金融緩和では困難である。このためには賃金の引上げによる内需拡大や技術革新による国際競争力の強化やニーズにあった新製品の開発を行うことが是非とも必要である。

異次元的金融緩和には問題があった。異次元的金融緩和をさらに拡大すべきではない。マイナス金利政策は中止すべき

である。

とはいえ、異次元的金融緩和をすでに実施してしまつた以上、この政策そのものを急に廃止することはできない。これを行えば、国債の暴落や企業の借入金利の増大という新たな問題を招くこととなる。異次元的金融緩和からの脱却は極めて困難な状況にあるといえるのである。

(2018年1月18日・公開アジア研究懇話会)

## 筆者略歴(さいとう ひさひこ)

慶應義塾大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科修士課程修了、博士(商学)。千葉商科大学商経学部教授を経て、現在同大学名誉教授・客員教授。金融論専攻。日本金融学会(元理事)、証券経済学会(元理事)会員。

『金融危機と地方銀行』(共著) 東京大学出版会、『信頼・信認・信用の構造―金融核心論―』泉文堂、『近代日本の金・外貨政策』慶應義塾大学出版会、等を刊行。「アベノミクス約3年間の評価―第1の矢―」(『政経研究』第105号)、『マイナス金利政策と金融リスク』(『ARIMASS研究年報』第15号、など論文多数)。

## 公開講演会記録

## 習近平の新統治モデル

時事通信社外信部編集委員 城山英巳

2016年6月、5年近くの北京特派員を終えて、国際善隣協会で講演させていただいた。実は、帰国してから訪中し

ていなかったが、2017年末に1年半ぶりに北京を訪れた。その感想を含めて今回は、3月5日の全国人民代表大会（全人代）開幕を控えて中国の習近平国家主席がどんな統治モデルをつくりたいか、私なりの分析を話したい。（以下、一部敬称略）

## ◇国家主席任期の撤廃

今回の全人代の焦点は何か。一つは2004年以来的の憲法改正であり、習近平の名前を冠した指導理念「習近平の新時代の中国の特色ある社会主義思想」が、昨年の党大会で党規約に明記されたのに続き、憲法にも盛り込まれる。現役指導

者の指導理念の党規約・憲法への明記は、毛沢東以来であり、権威は高まることになる。

（注）全人代直前の2月25日、共産党は、「二期10年」までと規定される国家主席の任期制限撤廃を柱とする憲法改正案を提示した。一方、共産党総書記、中央軍事委員会主席の任期は明文化されおらず、習は国家主席に関しては2023年にやめざるを得なかったが、憲法改正案が3月11日に採択されたことで、長期政権が可能になった。賛成は2958票、反対は2票、棄権は3票。圧倒的多数の賛成での採択よりも、勇氣ある5票の批判は注目に値する。歴史を振り返ると、鄧小平は、毛沢東が主導して国家を大混乱に陥れた政治運動・文化大革命（1966〜76年）の教訓から、独裁から集団指導体制、終身制から世代交代へと舵を切った。82年、毛沢東の代名詞だった「党主席」を廃止し、文革で打倒された劉少奇の失脚で空席



だった国家主席を復活させ、任期を10年に制限した。ただ鄧小平について、自分が指名した胡耀邦、趙紫陽という若手指導者を相次ぎ失脚させ、1989年の天安門事件を受けて長老政治で江沢民を抜擢するなど、必ずしも自分が作ったルールに忠実ではなかった。しかし習近平の今回の決定は、毛沢東政治への回帰を示すものだろう。

今回の全人代の焦点のもう一つは、国家・政府人事だ。習氏は国家主席に再選、李克強首相も再任される。党大会で最高指導部・政治局常務委員に名を連ねた栗戦書、汪洋はそれぞれ全人代常務委員長、全国政治協商会議主席になる。王滬寧は中央政策研究室主任を続けているが、宣傳・イデオロギー担当も統括している。党中央規律検査委員会書記の趙樂際は、反腐敗闘争強化のため新設される「国家監察委員会」トップに就くのではないか。

韓正・前上海市党書記は筆頭副首相になる。

副首相は、劉鶴（経済政策）、胡春華、孫春蘭（文化・教育）のほか、外交担当として15年ぶりに政治局員に入った楊潔篪国務委員は副首相に昇格する説が出ている。王毅外相は留任で、国務委員兼務になるのではないだろうか。（注）全人代で、国家監察委主任には楊曉渡氏が就任。副首相には劉鶴、胡春華、孫春蘭が入ったが、楊潔篪は副首相に名前を連ねず、党中央外事工作委员会弁公室主任に就いた。また王毅は、外相兼務で国務委員に昇格した。

問題は国家副主席に誰か就くかという点だろう。海外メディアでは、中央規律検査委書記として反腐敗闘争で辣腕を振るったが、政治局常務委員の定年である68歳を超えて退任した王岐山が、湖南省の全人代表に名を連ねたため、完全引退せず、国家副主席に就くのでは、という観測が報じられている。ここで習近平と王岐山の関係性を考えなければならぬ。つまりメディアで言われる「盟友」という関係は本当なのか、という問題だ。毛沢東が「序列2位」を徹底して潰したように、中国最高指導者はナンバー2への猜疑心と警戒は強い。トップへの野望を持った林彪のような人物も出た。党大

会直前の昨年7月に突然失脚した孫政才は、次期最高指導者の一人して内外に注目されたが、習近平は、自分を脅かす「ナンバー2」を早目に消したかったからと私は見ている。ナンバー2をめぐる共産党の権力闘争は今後も続くだろう。

習近平も、王岐山の能力や実績は言うまでもなく、与えられた任務をやり抜く政治的決断力、腹が据わった強い信念を知っており、このまま反腐敗闘争を統括させれば、自分まで寝首をかかれると警戒していたのではないだろうか。昨年4月に米国に逃亡した政商・郭文貴は、習近平の命令で中国公安次官から王岐山の親族の不正を調べるよう要求されたと暴露し、波紋を広げたが、背景には機あれば王の弱みを握りたい習氏の本音が隠されている。習が王を国家副主席に起用するならば、王の飛び抜けた能力をうまく生かし、対米関係で活躍を期待するという分析だ。国家副主席というのは、宋慶齡や榮毅仁らも就くなどかつては名誉職だったが、定年に関係なく就任することができる。内外は王岐山を「事実上のナンバー2」と位置づけるだろう。

（注）結局、全人代では17日、王岐山が国家副主席に選出された。日本メディアは、これまで「習一強」と掲げながら、王岐山が国家副主席に選ば

るや「習—王体制」という見出しを掲げている。私は、王が2期目も引き続き「事実上のナンバー2」で、「右腕」であることは間違いないとみているが、2人が本当に盟友関係にあるのかは、検証が必要だとみている。なぜなら党関係者に聞いたところ、1期目の習近平は、あまりにも急進的な王岐山の反腐敗闘争に慎重な姿勢だったからだ。王は危機を解決する能力はあるが、大胆かつ急進的な改革派であるため「安定」を優先する習との間で対立が起こる可能性がある。

### ◇「特異性」が「ルール化」を上回る

さて昨年10月の党大会までの経緯を振り返り、2022年の次期党大会までを展望したい。一言で言うると、「習近平の特異性」と「党の制度化（ルール化）」の相克と言い表せる。つまり党大会で「特異性」に関しては、習が福建、浙江、上海勤務時代に部下だった側近が、政治局で大勢を占めたことや、「習氏思想」が党規約に明記されたことが挙げられ、集団指導制の中での68歳定年制は守られ、習が狙っている毛沢東と同様の党主席ポスト復活とはならなかった。毛時代が終わり改革・開放が進む中での「制度化」の流れは、継続しているが、「習の特異性」が上回ったのが昨年の党大会の総括だろう。次期党大会に向け、「特異性」はさ

らに上回り、2022年には党主席制が復活するのではないか。そして習は事実上の終身制を狙うだろう。(注) 国家主席の任期撤廃も、「習の特異性」が優位に立っていることを裏付けるものだ。

これまでも今も中国共産党は「毛沢東が生き続ける」政治体制だ。毛を継いだ鄧小平が毛沢東政治と決別しようとする改革・開放を進め、1982年に「中国の特色ある社会主義」を掲げた。習近平の「新時代の中国の特色ある社会主義」というのは、鄧小平路線が区切りを迎え、「毛の中国」と「習の中国」が併存する時代であり、「習の毛沢東化」の本格的な幕開けとも言える。昨年の党大会で毛沢東に近づき、次期党大会で毛を追い抜く。今年12月に改革・開放40年を迎え、習は演説して鄧小平の功績を評価し、改革・開放の継続を宣言するだろうが、そこには習近平による新たな「改革・開放」認識、つまり「新たな鄧小平観」が出てくる。これまでと微妙な違いがあるはずで、注目したいところだ。

習近平のブレンで、昨年11月に来日した中央党校常務副校長・何毅亭氏は、東京で党大会のキーワードは「新時代」と言い切った。「新時代」を強調するのは、選挙で指導者を選ばない共産党政権の正

統性に対して危機感を持っているからだ。何氏は、毛沢東は人民が立ち上がり建国した時代、鄧小平は改革・開放で豊かになった時代、習の「新時代」は国が強くなくなっていく時代と強調した。「建国」「富国」「強国」と3段階になっている。共産党はこれまで抗日戦争に勝利し、毛沢東を中心に新中国建国につながったことを共産党政権の正統性の柱にしてきた。また鄧小平の富国時代は経済成長の恩恵が正統性となったが、これらも賞味切れまたは不十分と見られる。習が建国100年(2049年)に実現するとした「社会主義現代化強国」は、米国と並ぶ「国力と影響力」を持った国にするという目標を掲げているが、新時代とはいわば、毛沢東・鄧小平時代に代わる正統性を獲得する時代ということになる。

「新時代」は何かについて、前出・何毅亭氏は、東京での記者会見で、党大会の政治報告で「主要矛盾」が変化したことを挙げていた。つまり1981年以降、「物質文化に対する人々の要求と、立ち遅れた社会の生産力」の間に主要矛盾があるとされてきたのを、昨年の党大会で「人民の日増しに増大する素晴らしい生活への需要と、発展の不均衡・不十分との間の矛盾」に変化したと、位置づけた。

新たな矛盾の背景には、国民が希求する「素晴らしい生活」には程遠い大気汚染や環境破壊、不正な司法システムなどの現実があるが、中央党校教授はこの点に關して「民主、法治、公正、環境、安全面で不十分」と指摘している。この「民主」というのは西側民主主義国家の民主化ではなく、共産党の指導や社会主義体制下での「中国式民主」のことであることは言うまでもない。

習近平は昨年10月、政権2期目が発足し、他の新たな政治局常務委員6人と共に内外記者の前に立ち、「必ず人民の生活を年々素晴らしいものにする」と断言した。党大会政治報告にも「人民のより幸せで安全な生活」というフレーズが出てくる。「素晴らしい生活」は「新時代」のキーワードであり、共産党政権の正統性を継続するための目標になっているのだろう。習近平が正統性のために目指すのはこれと、習が先頭に立って推進する「強国路線」の2つということだ。しかし、その結果として考えられるのは、「習の権威」「党支配体制」「主権・領土」の3つでは妥協しないということだ。そして「個人崇拜」「異論排除」「対外強硬」というのはより進行するだろう。

## ◇「スマホ生活革命」と日本の中国

認識

私が、昨年末に北京に行って感じた大きな変化といえば、「シェア自転車」の爆発的普及だろう。1年半前はほとんどなかったが、今やどこでも拾い、乗り捨てられる自転車が大量に置かれている。これは「シェアリングエコノミー」の代表だ。私の北京駐在期間の5年近く、北京中心部で夜間にタクシーを捕まえることは至難の業となり、深刻さはますます増した。シェア自転車はこれを補うものだが、それより先に普及した配車アプリ「滴滴出行」に私は救われた。アプリ上で付近を走行しているハイヤーやタクシーが分かり、場所を指定して呼べばあと何分で来るかも分かる。少し高額なハイヤーは、トヨタのカムリやホンダアコードなどの中高級車が多く、運転手の対応も良く、飲料水のペットボトルも無料で提供される。移動する際には「滴滴出行」で車を呼ぶことがほとんどだった。

さらに日本でも最近、「財布を持たなくてもいい」と、日本よりも先を進む「スマホ決済」によるキャッシュレス化が話題だが、これも私が北京に駐在した最後の方から急激に広まった。銀行口座とつな

がるスマホ上の「微信支付」(ウィーチャットペイ)のQRコードで決済するのだが、使えない店を探す方が難しいくらい普及している。

習近平は党大会の政治報告で「デジタル中国・スマート社会」の推進を掲げた。(注)李克強首相は、3月5日の全人代政府活動報告で「次世代人工知能(AI)の研究開発・実用化を強化し、スマート産業を発展させスマート生活を切り開く」と強調した。こうした「スマホ生活革命」は確かに、人々の生活を便利にしている。それが「素晴らしい生活」なのかどうかは別だが、人々はこうした利便性の高い生活を歓迎している。

北京で会った中国政府当局者は、「便利になってもサービスはまだまだですから」と謙虚だったが、北京の日本人社会の方が、中国社会の変化に舞い上がっているように感じた。「中国に来てこんなに便利とは思わなかった」という日本人や、スマホ決済とシェア自転車は中国の庶民の民心をつかんでおり、共産党にとって「新たな統治モデルになるんじゃないか」という声も聞かれた。「スマート社会」を目指す政権にとって、国民の生活を便利にするためのIT、AI戦略というのは、共産党の正統性を懸けた生き残り戦略とも言えるのだ。

ただ、共産党主導のIT戦略の本質は、別のところにもある。今の中国は「巨大な籠」である。籠の中には、共産党管理下の民間企業が展開するスマホ決済やシェア自転車など、生活を便利にするIT技術が普及している。共産党は、国民にその世界が最も眩しいと思ひ込ませ、満足感を与える。そして籠の外にある言論の自由や、指導者を選挙で選ぶ権利、というような西側民主主義の世界に関心を持たせないようにしているのではないか。

またウィーチャットペイと競合するアリババグループの「支付宝」(アリペイ)が運営する「芝麻信用」(ゴマ信用)は、利用者の信用を950点満点で評価するシステムだ。ネット通販の取引のほか、学歴・職歴、資産状況、交遊関係などを追加入力し、ポイントが高ければ、シェア自転車の保証金が無料になったり、ホテルの保証金が免除されたり、融資が受けやすくなったりするなどの特典が多い。評価ポイントが高くなれば、特典が得られるわけだから人々は信用を高めようと品行方正に振る舞う。逆に評価が下がれば、日常生活が不便になると、思わせることができる。ネット通販や配車サービス、公共料金、シェア自転車などの支払い遅延などペナルティがあると、信用は下がり、

その個人情報やスマホが管理するのだ。つまり人間の信用までスマホに管理される社会になっているのだ。

さらに中国で普及する顔認証システムは、信号無視した人物を特定し、取り締まる「武器」になっている。当局が不審者とみなす人物の追跡にも使われている。この巨大な監視システムは、大きな人権問題をはらんでいると言える。特に中国当局が、分離・独立の動きを警戒する新疆ウイグル自治区でこの監視システムが大々的に導入されている、という情報もある。

さて北京の日本人社会が、中国のスマホ決済やシェア自転車を見て、「中国はすごい」と認識を新たにしている最中に、北京で起こっていたことに目を向けないわけにはいかない。北京市当局は、市郊外で昨年11月に起こった火災を理由に「違法建築」一掃を掲げ、そこに住んでいる出稼ぎ労働者を一斉に追い出していたのだ。当局は出稼ぎ労働者ら社会的弱者を「低端（低レベル）人口」とみなし、北京の発展を支えた出稼ぎ労働者を切り捨てているとの批判が、改革派の学者や調査報道記者、人権派弁護士らから巻き起こった。学者・記者・弁護士が、中国版LINE「微信」（ウィーチャット）で発信し

たり転送したりした出稼ぎ労働者追いつきに關する文章や写真は次々と削除された。知り合いの調査報道記者に聞くと、報道ばかりか取材もできなかった。潜伏取材した記者によると、数日以内に撤去しろと命令が出て、期限が過ぎると電気も停められたという。

人権派弁護士に対する弾圧も続いている。人権派弁護士の拘束、逮捕は2014年から深刻化し、15年7月以降、30人以上の人権派の弁護士や活動家が連行された。最初に7月9日に女性人権派弁護士・王宇さんが拘束されたことから「七〇九事件」と呼ばれているが、「七〇九」で拘束され、今も家族に消息が伝えられていない王全璋氏は行方不明になって950日を超えた。「国家政權覆覆」罪で起訴された人権活動家・呉淦氏は昨年末に懲役8年の判決を受けた。呉氏は否認を続けたため厳罰になったが、同じ日に「国家政權覆覆煽動」罪に問われ、判決を受けた別の人権派弁護士は、罪を認めたとして刑事免除になった。刑事免除を異例の措置として「批判に配慮」と報じた日本のメディアもあったが、私はそう見ていない。「罪」を認めれば許すが、認めない者は絶対に容赦しないというのが共産党の戦略であり、そもそも存在しな

い「罪」を認めない者への厳罰を際立たせ、人権派や民主派を貶め、その風潮を社会に浸透させる狙いがあるのだ。だからわざわざ同じ日に判決を下したのだ。

「七〇九」事件で逮捕された人権派弁護士を支援してきた余文生氏が拘束されたのは1月19日。早朝、登校する子供を送ろうと階下に降りたところ警察に連れ去られた。余氏は、15日に弁護士資格の更新を認められないなど当局の迫害が強まっていた。前日の18日、共産党の第19期中央委員会第2回総会開幕を前に、余氏は公開書簡を発表したが、その行為が当局を怒らせたという見方もある。この総会の主要議題は憲法改正だが、余氏はこれに合わせ国家主席の複数候補による選挙を求める改憲案を提起したのだ。（注）国家主席の任期撤廃を提案する予定の中、中国当局にとって国家主席選挙を求めた余氏の公開書簡は、政權の逆鱗に触れる内容であると分析できよう

私は、習近平は、2012年以降の1期目に、①政敵、②民間の人権・民主派、③中国と主権問題などで主張を異にする国際社会、という3つの敵を打倒して権力基盤を固めた、と分析している。①は反腐敗闘争の中で倒し、②は前述したように一斉拘束・逮捕した。③について顕著だったのは、2016年7月に南シナ

海の仲裁裁判で自分たちの主権が否定されたにもかかわらず、仲裁裁判判決を「紙くず」と一蹴し、逆に南シナ海の周辺国を取り込んだ外交は記憶に新しい。最近では自社サイトでチベット自治区や台湾などを国家として扱った記述があった外資系企業が次々とネット上での告発を受けて謝罪に追い込まれている。中国に進出している外資系企業は、巨大市場を無視できず、主権や領土に関する中国の主張に従わざるを得ない現実がある。習政権は、ますます「俺たちに逆らったらただでは済まないぞ」という強硬な姿勢を鮮明にしているのだが、習近平外交に関しては後で触れる。

日本だけでなく米国も追い越す勢いのIT、AI技術を獲得しつつあり、「強国」として世界に影響力を高める中国の現実にはきちんと向き合い、日本として中国との協力強化を最優先に考えるのか。それとも、中国のIT、AI技術を国民監視にも利用する共産党の国家戦略の本質を見極めるほか、出稼ぎ労働者の迫害や人権派弾圧などの真実が中国の一般市民には伝えられず、情報統制が強化される一方の中国社会の問題点により焦点を当て、中国への警戒を緩めないでおくのか。日本の中国認識が問われることにな

りそうだ。

### ◇「新時代」の日中関係と外交政策

次のテーマは日中関係だ。「新時代にいった」と評される習近平2期目政権によって日中関係はどう変わるのだろうか。日中関係は改善基調になるが、そのプロセスについて日中両政府幹部の認識はほぼ一致しているのは興味深い。昨年春まで、「日本台湾交流協会」への名称変更など日台関係を理由に停滞した日中関係は、同年5月に北京で開かれたシルクロード経済圏構想「一带一路」国際会議に、二階俊博自民党幹事長が参加し、習主席と会談した。安倍首相も「一带一路」への協力を表明し、7月にはドイツ・ハンブルクで安倍と習の首脳会談が実現した。中国政府幹部が安倍政権の「前向きな発信」として評価したのは、8月15日の終戦の日に関内閣のどの閣僚も靖国神社に参拝しなかったこと、9月末に東京で開催される毎年恒例の中国国慶節レセプションに安倍首相が異例の出席を果たしたことだ。北京で中国の対日研究者に話を聞いても、あれだけ厳しく批判し続けた安倍氏の評価が一転して「安倍首相は協力できる相手だ」とまで評価する学者もいる。日中双方とも日中関係の改善を

実感しているようだ。

何毅亭・中央党校常務副校長は、昨年の日中国交正常化45年、今年の日中平和友好条約40年、習政権2期目を迎えた党大会開催の3つを挙げ、「中日関係に新たな喜ばしい変化が生じたと感じている」と言い切った。何氏は習近平のブレインだけに習政権として日中関係の改善を進める意向なのだろう。さらに1月に入り中国海軍所属の潜水艦が尖閣諸島周辺の接続水域を初めて航行し、「日中関係改善に冷や水を浴びせた」と、日本各紙が報じる中でも同月末に河野太郎外相が訪中した。日曜日にかかわらず李克強首相も会談に応じ、首脳往来に前向きな反応を示した。

今後の日中首脳往来のロードマップはどうなるか。全人代が終わり5月にも李克強首相が日中韓首脳会談に出席のため来日する見通しだが、李氏の公式訪問に格上げされる可能性もある。(注)実際に公式訪問になった。安倍首相が昨年の国慶節レセプションで明言したのは、日中韓首脳会談に合わせた李首相来日に続き、「安倍訪中」「習近平来日」というロードマップだ。一方、日本政府は、習主席の来日についても日中平和友好条約締結40年の今年に実現させ、年内首脳相互訪問

を実現させたい意向だが、中国政府では年内の習近平来日は厳しいとの見方がもっぱらだ。ちょうど2019年に20か国・地域（G20）首脳会議が日本で開催される。6月にも大阪と言われているが、習はG20首脳会議に出席する時、それに合わせて国賓訪問を行いたい、という筋書きを描いている。習指導部が発足した2012年以降、習は一度も訪日していないわけであり、中国政府もそろそろと実現できる良好な雰囲気づくりを進めたい意向だ。習政権が対日関係の安定を急ぐのは、不安定なトランプ政権との関係も影響しているだろう。いずれにしても習氏の来日に向け、中国は対日関係の良好な雰囲気づくりを最優先し、安倍政権も歴史・尖閣問題で対中配慮を重視するだろう、との期待感が中国側には強まること予想される。

中国の潜水艦が尖閣諸島周辺の接続水域に進入した際、私は外信部デスクをしていて、編集局の幹部が来て「日中関係は改善しているのだから中国はそんなことをやってくるんだ」と尋ねられた。中国の対日外交は常に「協力」と「牽制」が同居していると答えた。日本と接近すれば、軍など対日強硬派が揺さぶろうとする。例えば、1978年に鄧小平が日

中平和友好条約締結を進めたところ、尖閣諸島周辺海域に200隻もの漁船が大挙してやって来た。2008年12月、日中韓首脳会談が当時の麻生太郎首相の地元である福岡で開催され、温家宝首相が来日する直前、尖閣諸島付近の日本領海に中国の海洋調査船が侵入した。2012年9月に日本政府の尖閣諸島国有化で中国国家海洋局の公船による尖閣諸島付近での領海侵犯が開始されたと思われるが、実はその4年前に尖閣をめぐる中国の対日戦略は強硬方向に転換していた。08年5月、胡锦涛国家主席が訪日したことを受けて東シナ海の共同開発で合意したが、日中が接近しすぎる動きに対する牽制であったとみられている。

中国の対日政策は「軟一辺倒」には決してならない。関係改善が進むと、軍や海洋当局など主権を優先する勢力は、尖閣問題を軽視されてはたまらないと、内外に「主権誇示」行動を行うのだ。そのアピールは、日本だけに対して行うのではなく、中国国民に対して、交渉を行う中国外務省にも向けられたものだ。1月の潜水艦侵入のケースも、軍による牽制だろう。その次に尋ねられるのは、「習近平の指示があったのか」どうかだ。おそらく直接の指示はない。習主席は一

貫して「主権死守」を訴え続けており、軍もこうした習氏の意向に沿っている。習氏も原潜の尖閣接近を事後に知ったとして、「中日関係を改善している最中なのにそんなことをどうしてしたんだ」とは絶対には言わないだろう。自分では指示はしなくても、軍の行動を認めるに違いない。

問題は、関係改善基調の中の尖閣問題という「火種」が尾を引くか、ということである。今回の潜水艦の問題で安倍政権はかなり強く出たという印象だ。小野寺五典防衛相が「中国海軍の所屬」「攻撃型原子力潜水艦」などと情報を公表し、中国軍・政府からすれば、苛立っただろう。私は、この問題は尾を引くのではないかと見たが、必ずしもそうではなかった。河野外相が訪中して予定通り李克強首相と会談し、李首相から来日に前向きな発言を引き出したことは、中国指導部には主権問題は譲れないが、対日関係を改善したいという意向があることの表れだ。ただ私を感じるのには、日本では中国の存在感が高まる一方、中国では日本の存在感が薄くなっていることだ。1980年代は、中国の改革・開放のため日本からの経済協力は欠かせなかったが、現在は中国の国家体制に影響を与える「日本

「ファクター」は少なくなり、「別に日本との関係が悪くても国家体制にとって痛くもかゆくもない」という見方が強まっているのではないか。中国指導部も日中関係で主導権を握れる「余裕」が生まれ、余裕はどんどん膨らんでいるように見える。

習近平は1期目と違い、2期目に入り外交政策が柔軟になったという印象だ。1期目は、主権・領土問題を絶対に譲らない「強硬外交」を展開した。尖閣諸島の国有化問題が継続する中でトップに就いた習近平は、その後安倍首相の靖国神社参拝の問題も重なり、対日強硬路線を貫いた。南シナ海でも人工島の埋め立てを進め、既成事実化を図る一方、仲介裁判判決を否定した。習近平は「強い指導者」を内外に誇示することに成功した。印象的だったのは2014年3月にパリで語った習の言葉だ。「中国は眠れる獅子。目覚めれば世界は震え上がる」。当時、尖閣・靖国問題で日中関係は戦後最悪と言われる時期だった。

強硬外交を展開した結果、特に南シナ海では既成事実化が進み、尖閣諸島周辺にも国家海洋局の公船の侵入は日常的となった。海軍の艦船や潜水艦も来る事態になっている。こうした中で、日本はと

もかく、経済的結びつきの強い東南アジア諸国の間には「中国に強く出られない」「中国の主張には逆らえない」雰囲気が生まれているのは事実だ。そして2期目に入るやいなや、安倍首相との会談で習主席は笑顔を見せるなど、「柔軟外交」が目立っており、「中国外交の変化」を印象付けている。1期目にあれだけ強硬外交を進め、既成事実化を進めたわけですが、それから一転しての「微笑外交」によって「中国は前向きになった」と評価されるわけだから、中国外交の勝利とも言えるよう。

### ◇習近平が目指す5点

- 最後に習近平は、どういう「統治モデル」をつくろうとしているのか、考えてみたい。
- 一、共産党の新たな正統性づくり。「強国」と「素晴らしい生活」がキーワードとなるだろう。
  - 二、「3つの敵」(政敵、人権・民主派、国際社会) 打倒路線を継続。反腐敗闘争は継続しており、人権派弁護士も逮捕され、言論統制も緩まっていない。また中国と主張を異にする海外への非難は続くだろう。
  - 三、米国との対等な関係づくり。王岐山

の国家副主席への異例の起用は、不安定な対米関係を念頭に置いたものだ。四、中国に逆らえない国際環境づくり。五、2022年の次回共産党大会で「党主席」ポストの復活。(2018年2月15日・公開アジア研究懇話会)

### 筆者略歴(しろやま ひでみ)

1969年生まれ。慶應義塾大学文学部卒、時事通信社入社。社会部、外信部などを経て、2011年〜16年2度目の中国総局(北京)特派員、中国での現地駐在取材は10年に及ぶ。2011年早稲田大学大学院修士課程修了。戦後日中外交史の調査報道などで2013年度ポーン・上田記念国際記者賞受賞。著書：『中国共産党「天皇工作」秘録』2009年 文春新書、アジア・太平洋賞特別賞受賞、『中国臓器市場』2008年 新潮社、『中国人1億人電脳調査』2011年 文春新書、『中国消し去られた記録―北京特派員が見た大国の闇』2016年 白水社

# 日中の歴史的関係を

## 雅楽の側面から垣間見る

元神奈川大学講師、平安楽舎雅楽研究所長 長谷川景光（会員）

### 雅楽は複合的芸能

皆さん。雅楽をお聴きになったことはありますか。

雅楽で一番耳にする曲が、越殿楽（えてんらく）という曲なのですが、この曲は結婚式場の神殿で新郎新婦が三三九度の盃を交わす際に演奏されたり、CDで音楽がかけられたりする祝賀曲です。しかし、平成に入ってから中小の結婚式場では神殿が撤去され、これに替わってチャペルが付設されるように様変わりしていますので、越殿楽ですらお聴きになる機会は少なくなっていました。

一方、雅楽の曲名で一番有名なのが千秋楽なのですが、お聴きになったことがある方はまじらっしゃいません。ご承知のとおり、相撲や歌舞伎、そして舞台の最終日を意味する言葉として遣われています。

さて、雅楽の特徴を一言で言いますならば複合的芸能なのです。具体的には、前述の越殿楽、千秋楽といった唐楽を筆頭に、高麗楽（こまがく）、そして神楽歌、東遊びなどの国風歌（くにぶりのうた）の他、漢詩を詠う朗詠、和歌などを歌う催馬楽（さいばら）が代表的なジャンルです。因みに、私の専門は横笛なのですが、唐楽の時

は龍笛を、高麗楽の時は高麗笛を、神楽

歌の時は神楽笛を、東遊びの時は東遊び笛を、といったように各ジャンルで用いる楽器も異なります。つまり、外来の芸能と国粹の芸能、儀礼の芸能と宴の芸能など、歴史も縁起もまったく異なる芸能をひとまとめにして雅楽と総称されています。

### 雅楽は一四五〇年以上の歴史

それでは、雅楽という概念はいつ、どこで形成されたのか、



と尋ねられたら、当然、雅楽のルーツである中国であると、皆さんお考えになると思います。確かに、最古の出典として、紀元前5世紀以降に編纂された『論語』のなかで、「惡鄭聲之亂雅楽」という記載のあることが知られています。「雅」の文字が「正しい」の意で、すなわち「雅ノ楽」として使われていますので、雅楽とは異なる意味として遣われています。

では我が国ではというと、難読漢字として知られている平安

時代の「雅楽寮」は「うたまいのつかさ」と読みます。一方、『源氏物語』では「御遊び」、「管絃」、また単に「楽」と表現されており、当時、雅楽（ががく）という言葉が遣われていなかったことが分かります。

実は、雅楽（ががく）という言葉は、正式には明治時代に確立された概念であり、また雅楽という単独の音楽は存在しないのですが、日本の雅楽の歴史は一三〇〇年に及ぶなどとも言われます。これは大宝元年（七〇一）に制定された大宝律令により雅楽寮が設置されたことをもって雅楽の起源としているからなのです。

しかし、『日本書紀』における記載では、允恭四二年（四五三）に允恭天皇崩御の喪礼のため新羅から多数の楽人が遣わされたとの記載があり、また宣化一九年（五五四）に百濟から四人の楽人が役目交替のため渡来したとの記載があります。前者は一過性の渡来楽人ですが、後者は常設的楽人として位置づけ

られ、少なくとも六世紀以前には渡来雅楽が定着していたことになり、このことから雅楽は一四五〇年以上の歴史があると位置づけられます。

### 日本の雅楽は中国の俗楽

さて、奈良時代の日本は、シルクロードの終着点であったことからさまざまな国の音楽が伝わりました。例えば、天竺（インド）の婆羅門僧正菩提達磨と林邑（ベトナム）の僧侶である仏哲が天平八年（七三六）に渡来し、八楽を伝えたことが知られていますが、その天竺楽、林邑楽の他、胡楽（蒙古、西域）、渤海楽（満洲）、度羅樂（アフガニスタンの都貨羅、タイの吐火羅、ビルマの墮羅、済州島の耽羅の四説あり）などが伝来しました。

私の最近の研究では、この他にウズベキスタン、インドネシアから伝わった曲もあります。つまり、雅楽とは古代に存在した、世界的にも歴史的にも例を

見ないインターナショナル・ミュージックだったのです。

と、ここまで書くと雅楽は貴重で希有な存在であることがお分かりいただけたと思うのですが、意外な事実があるのです。それは、唐の国から伝わったのは雅楽、すなわち雅正の楽ではなく俗楽だったということなのです。

これについて、東京藝術大学の柘植元一名誉教授は、ビデオ『雅楽』の解説に次のように書かれています。

「わが国に伝えられている雅楽はもともと外来の楽舞であった。これは唐代の中国宮廷で行われていた宴饗楽（宴饗雅楽）が渡来したものである。この日本に伝えられた雅楽は確かに広義の雅楽ではあるが、実は本来の中国の狭義の雅楽ではない。という、意外に思われる向きがあるかも知れない。その理由は、古代中国では雅楽が儒教の祭祀楽を意味したからである。中国では宗教儀礼のための雅楽と、宴饗のための讌楽（えんが

く、燕楽、宴楽とも書かれる）とを区別していた。前者は正楽つまり雅正の楽として、後者は俗楽として分類されていた。俗

楽は胡楽をも吸収していった。胡楽は中央アジア・西アジアなど西域の楽舞で、漢民族にとっては外来音楽であった。こうした起源を異にするさまざまな楽舞の様式が宴饗楽にとりこまれており、それが日本に中国の雅楽として伝えられたのである」

このように、多くの国から唐の都に伝えられた俗楽こそが日本の雅楽であったのですが、先ほど雅楽のルーツは中国であると前に記しました。中国から伝来した楽を唐楽と言ひ、別名は左楽、その舞を左舞と言ひます。これに対して右楽である高麗楽は朝鮮伝来の楽とされるのですが、韓国でも雅楽が伝承されており、韓国雅楽は唐楽と国楽に分類されます。

つまり、中国からダイレクトで伝わったか、朝鮮経由であったかの違いであって、雅楽の主體的ルーツは、やはり中国であ

ると言えるのです。

## 厄介な和魂漢才

さて、私が一番厄介と考える四字熟語が和魂漢才です。以下に、『日本大百科全書（ニッポニカ）』（小学館発行）からの長い引用をご紹介します。

——日本思想上の用語。和魂漢才は平安中期に生まれた思想で、当時は「やまとだまし・からざえ」といった。中国渡来の正確鋭利な知識（漢才）もたせつたが、日本社会の常識に通じ臨機の処置をとれる人柄（和魂）もまたたいせつというので、いわば専門と教養との兼有を説くもの。『源氏物語』に「猶（なほ）ざえをもととしてこそ、やまとだましゐるの世にもちゐらるるかたもつよからめ」とみえるのもっとも早いほうで、『大鏡（おおかがみ）』『今昔（こんじゃく）物語集』『愚管抄（ぐかんしょう）』などに同様の用例がある。鎌倉後期、蒙古（もうこ）襲来からおきる

日本神国思想は、これに一変化を生じる。室町時代成立の『菅家遺誠（かんけゆいかい）』はその典型で、「一、凡（およそ）神国一世無窮之玄妙者……」「凡国学所要……和魂漢才……」とみえ、神国は至上で漢土の革命の国風と違う、日本の研究はかならず和魂漢才を兼具する必要があるという。この書は、平安前期の和漢兼修の大学者菅原道真（すがわらのみちざね）に仮託された偽書であるが、中世の人々が漢土に学ぶとともに日本の特性に注意し自覚をもつことを説いたのがよくわかる。「わこん・かんさい」という語はここで確立した——

なぜ厄介かと言うと、和魂は良しとして、漢才は「かんさい」「かんざい」「からざえ」「からざらえ」「からざい」などと読み方がさまざまあり困惑してしまふのが第一で、第二には引用文からもお分かりいただけるように、この熟語が日中の歴史的関係を如実に表すとともに、良い意味にも悪い意味にも捉える

ことができる言葉だからです。

雅楽全盛期であった平安時代において、雅楽は漢才の象徴的な存在であり、遣唐使によって唐の都より楽、舞が伝えられ、楽器、楽譜が持ち帰られました。考えてみれば、日本が狩猟採集の生活をおくっていた縄文時代に、中国では最古の編年体の書物である『春秋』が編纂されており、著しい文明格差が存在していたことは事実です。

## 中国でも宮廷音楽の研究が盛んに

では、本家本元である中国において雅楽、すなわち宮廷音楽



敦煌莫高窟

はどのように継承されていったのでしょうか。その答えのヒントとなるのが、敦煌の莫高窟です。結論として引き合いに出したいのが敦煌琵琶譜なのですが、その前に、莫高窟が甘肅省敦煌市の近郊にある仏教遺跡であることは、皆さんご承知でい





是彼會員

# 中国地方 観音寺霊場めぐりの旅

岡 和良（会員）

中国地方、岡山・広島・山口・島根・鳥取の五県にわたって点在する観世音菩薩をご本尊とし、我が国の千年余の歴史を今に伝える古寺・名刹を、平成二十九年七月九日から七日間、巡礼する旅を続けた。

一行は、伊藤正博・雨宮武・石川薫・岡和良の四名で、平均年齢八十三歳の老人グループ。神奈川県大和市から現地往復と、寺から寺への移動は、すべて雨宮氏運転のマイカーによりスムーズに行われ、その走行距離は二七六〇キロに達した。マイカーのお蔭で効率的に移動できた。一人でハンドルを握り、安全運転を続けてくれた超人・雨宮氏に、心から感謝しお礼申し上げたい。

梅雨末期で雨が心配されたが、初日に少し降られただけで、その後は傘不要の旅を続けることができた。観音様が我々

の心意気を感じて、雨雲を吹き飛ばしてくださったのだろうか。

我々は、略式ながら白衣に袈裟掛けの井出ちで寺を訪れ、ご朱印を戴くと共に、本堂に参拝、般若心経を讀経させていた。

遠路、東京からの参拝というためか、どの寺院でも我々は暖かく迎えられた。住職の方々との懇談、写真撮影などを通じて、我々は心暖まる交流ができ、思い出に残る旅になった。

深山の大樹に囲まれ、静まり返った境内の霊気、極楽浄土を思わせる蓮の花、湧き出る清水とせせらぎ、静寂を揺るがすような蝉時雨など、我々は心洗われる思いに浸りながら、そして観音様のご慈悲を背中に感じながら、さらに充実感を胸に畳んで、山陽及び山陰地域の第一番札所から第三十三番札所の三十三か寺と

特別霊場四か寺に、五木寛之の『百寺巡礼 第8巻 山陽・山陰編』の四か寺を加えた四十一か寺を巡礼したのである。

〈七月九日〉

朝早く小田急・相模大野駅近くをスタート。東名高速など高速道路を、一路岡山へ向かう。梅雨末期ということ、途中、雷雨に襲われるなどしたが順調に走行。予定時刻に到着し、観音寺めぐりの旅が始まった。

第三番札所 正楽寺（岡山県備前市）

高野山真言宗 開山・七四九年

山の緑、土塀の白壁と竹林の静けさ、そして重厚な寺構え。仁王門「雲と波」の彫刻は、鎌倉時代の面影を残す。

住職は、大僧正・福田寺全巨氏。丁寧に対応して頂く。

第二番札所 余慶寺（岡山県瀬戸内市）

天台宗 開山・七四九年

雨が上がり、雲の切れ間から日差しが射し込む。吉井川を見下ろす小高い丘の上

にあり、本堂前に鉢植えの蓮の花が、古刹を包み込むように咲いていた。

第一番札所 西大寺（岡山県岡山市）

高野山真言宗 開山・七七七年

荘厳な造りの本堂内陣、千手堂の天井絵などは必見といわれる。

守護札を揮一つの男たちが奪い合う裸祭りは、三大奇祭の一つとして有名。  
**第五番札所 法界院**（岡山県岡山市）

真言宗 開山・七二九年頃

ご本尊・聖観音は、松の一本一体の稀有な霊像で、平安初期の貴重な作とされる。

岡山は瀬戸内海の気候に恵まれて花開いた吉備文化圏の中心で、水陸交通の要衝。池田三十一万五千石の城下町。  
 橋本春峯任職から詳しい説明を受ける。

〈七月十日〉

**特別霊場 誕生寺**（岡山県久米南町）

浄土宗 開山・一一九三年

法然上人降誕の聖地。全浄土教徒の魂の故郷と敬仰される。

境内に、産湯の井戸、歴代住職の墓、樹齢八六〇年の大銀杏、そして苔の参道とせせらぎに、心洗われる。

**第四番札所 木山寺**（岡山県真庭市）

高野山真言宗 開山・八一五年

標高四三〇メートル、老杉茂る静寂な境内は、深山の靈気に包まれる。自然保護地域に指定されている。

開山当時、流行した疫病を退散させて、信仰が深厚になったと伝えられる。

深山を揺るがすような蝉時雨が印象的。



第四番札所 木山寺（左から、岡、石川、伊藤、雨宮）

**第六番札所 蓮台寺**（岡山県倉敷市）

真言宗 開山・七三三年

厄除け総本山として、権現さまの靈験あらたかで、瀬戸内隋一のお詣り所として栄える。右手に大剣を持ち、睨みをきかす権現さまに、暫し見とれた。

**第七番札所 円通寺**（岡山県倉敷市）

曹洞宗 開山・一六八八年頃

良寛和尚が二十二歳から十一年間修行した寺で、その後、全国を行脚し聖僧と慕われた。境内に良寛の像がある。寺域

一帯は県指定の公園で、すこぶる景勝の地である。

**第八番札所・五木寛之八〇 明王院**（広島県福山市）

真言宗・大覚寺派 開山・八〇七年

弘法大師が開いたと伝えられる。時代を先取りした斬新な意匠の本堂と五重塔は国宝。身代り観音として、今も多くの人々から信仰を受けている。

**第十一番札所 向上寺**（広島県尾道市）

曹洞宗 開山・一四〇〇年

瀬戸内海の生口島にあり、災害鎮圧と興隆繁栄の祈願寺として崇敬される。国宝の朱塗りの三重塔が異彩を放つ。梵鐘の音色は、除夜の鐘として全国に放送される。

寺院周辺の巨岩に先人達の句が刻まれており「文学の小径」となっている。

**第九番札所・五木寛之七九 浄土寺**（広島県尾道市）

真言宗泉湧寺派 開山・六一六年

聖徳太子によって創建され、身代り観音として信仰される。高野山と深い縁がある。

瀬戸内海有数の良港・尾道は、古くから交通・経済の要衝で、当山は公武両面から重要な拠点だった。

多宝塔は国宝で、日本三名塔の一つ。

特別霊場 西国寺（広島県尾道市）

真言宗醍醐派 開山・七二九年頃

長さ約二メートルの大草履の仁王門は、観光尾道のシンボル。百八段の石段、幕末を語る大方丈と華麗な伽藍、転じて眼下の尾道水道など、絵巻が展開される。弘法大師の霊跡として多くの人を迎える。

第十番札所 千光寺（広島県尾道市）

真言宗単立 開山・八〇六年

海拔百メートルに位置し、眼下に尾道水道、瀬戸内海の島々、遠くに四国の連山を望む素晴らしい景観。

尾道の名刹、浄土寺・西国寺・千光寺の三寺は、過日のNHKのプラタモリの番組で放映された。

「火伏せの観音」と称せられ、火難除けに霊験あらたかだったと、伝えられる。今は諸願成就の観音様として、参詣者が絶えない。鐘楼の鐘は、除夜の鐘として広く親しまれ、尾道名物の一つになっている。

## 七月十一日

第十二番札所 佛通寺（広島県三原市）

臨済宗 開山・一三九七年

巨大な千年杉が林立し、鬱蒼と茂る樹海の中に仏閣が佇み、厳しい禅寺の気魄が漂う臨済宗の大本山。開山禅師の佛通

禅師と大通禅師の尊像が塔所に端座して、古刹の今を見守っている。

第十三番札所 三瀧寺（広島県広島市）

高野山真言宗 開山・八〇九年

広島県の原爆犠牲者慰霊のため、多宝塔が和歌山県の広八幡神社から移築され、八月六日に慰霊法要が行われる。

境内は深山幽谷の風情があり、瀬音を聞きながら苔むす参道を歩くと、沢から迷い出た蟹に出逢い、思わず微笑む。広島市民の安らぎの聖地、心の故郷となっている。

曾ては、多くの修行僧が滝に打たれ、岩窟で禅定に入ったと言われる。

第十四番札所 大聖院（広島県宮島）

真言宗御室派 開山・八〇六年

厳島神社の別当寺として祭祀を行っていた厳島の総本坊。厳島には多くの観光客が訪れて賑わっているが、その奥にある大聖院を訪れる人は少ないようだ。

広島から海を往復する観光船と、参道で人と戯れる鹿は、気持ちと和らげられる。

特別霊場 般若寺（山口県平生町）

真言宗御室派 開山・五八六年

用明天皇（聖徳太子の父）の皇子時代の、絶世の美女・般若姫との悲恋が、開山の背景にあって、姫の菩提を弔うため

に創建された、といわれる。

境内にある聖徳太子鞭の池は、太子が全国巡幸の折、父の墓参に当山を訪れた時に、供養のため掘られたことで有名。

## 七月十二日

第十五番札所 漢陽寺（山口周南市）

臨済宗南禅寺派 開山・一三七四年

境内の側溝の清流に、心洗われる。池に泳ぐ鯉の群れも清々しい。

「曲水の庭」に代表される平安時代のさまざまなタイプの庭園と精進料理は好評で、訪れる人多く、マスコミにも紹介される。

五木寛之七八 阿弥陀寺（山口県防府市）

華嚴宗 開山・一一七八年

東大寺が火災により焼失した際、当寺を創建した俊乗坊重源上人は、この地の巨木を伐採して水路奈良へ運んで再建したという。境内に、当時作業人が汗を流したという湯屋と、上人が腰掛けたといわれる石が、霊石として残されている。

第十八番札所 宗隣寺（山口県宇部市）

臨済宗東福寺派 開山・七七七年

唐より来日した為光和尚が、故国に似た景観と、山麓の湧泉の靈感に惹かれて寺を創建した。

境内整備工事の際、発見された朝鮮鐘

は国の重要文化財。また宗隣寺庭園は、  
 深淵な禅の真髄を説く閑寂な趣きで、国  
 の名勝庭園に指定される。

第十九番札所 巧山寺（山口県下関市）

曹洞宗 開山・一三二〇年

高杉晋作が、八十人の奇兵隊を率いて  
 義兵の旗揚げをした明治維新発祥の地。  
 彼の騎馬像が天空を睨んでいる。維新か  
 ら一五〇年、晋作は今の世を如何に見る  
 だろうか。

第十七番札所 龍蔵寺（山口県山口市）

真言宗御室派 開山・六九八年

本尊は馬頭観音。雪舟筆の絵馬額や三  
 十三頭の大絵馬のある絵馬寺。

滝壺に落ちる水音から鼓の滝と名付け  
 られた三段の滝、その飛沫が樹齢千年の  
 大銀杏を育む。

第十六番札所 洞春寺（山口県山口市）

臨済宗建仁寺派 開山・一五七二年

約二百年間、中国地方を支配した大内  
 氏に代わった毛利家の初代・元就の菩提  
 寺。毛利家の栄枯盛衰を見る思い。

晩年の元就は、戦乱に果てた兵士を、  
 敵味方の別なく供養し、法要は欠かさず  
 続けられているという。

五木寛之七七 瑠璃光寺（山口県山口市）

曹洞宗 開山・一四七一年

五重塔は、奈良の法隆寺、京都の醍醐

寺と並ぶ日本三名塔の一つに数えられ、  
 国宝。

青空に向かって屹然と聳える美しさは  
 圧倒的、魅力的。



〈七月十三日〉

第二十番札所 大照院（山口県萩市）

臨済宗南禅寺派 開山・一三三四年

関ヶ原の戦いに敗れた毛利家は、居城  
 を広島から萩に移し、以後、明治維新ま  
 での約二六〇年間、十三代の藩主を数え  
 る。

城下町・萩は、武家屋敷など江戸時代  
 の面影をよく残し、また、幕末・明治維  
 新时期に多くの人材を輩出した地として知  
 られる。

萩に築城後の毛利家の藩主は、偶数代  
 は大照院に、奇数代は東光寺に、交互に

葬られている。大照院には、七代の藩主  
 夫妻が、家臣寄進の六〇三基の石灯籠に  
 護られ静かに眠る。

第二十一番札所 観音院（山口県萩市）

臨済宗建仁寺派 開山・一五五八年

河口の高台に位置し、眼下に日本海を、  
 正面に萩城址を望む。海上安全・水難防  
 止観音と崇められ、海難犠牲者の慰霊碑  
 が冥福を祈っている。

五木寛之七六 東光寺（山口県萩市）

黄檗宗（開祖は中国の隠元和尚）開山・  
 一六九一年 毛利家の菩提寺

毛利家の墓所に整然と並ぶ約五〇〇基  
 の石灯籠に目を奪われるが、当時の藩主  
 の死に際し家臣の殉死する風習を禁じ、  
 家臣に石灯籠を献上させることにしたこ  
 とによるものといわれる。亡き君主に自  
 分の命を捧げるという思いが、多数の石  
 灯籠にこめられているわけで、肅然とさ  
 せられる。

五木寛之七五 永明寺（島根県津和野町）

曹洞宗 開山・一四二〇年

津和野町は、緑の山並みに囲まれ、津  
 和野川に沿って街並みが作られ、側溝の  
 清流に鯉の影が……という、静かで美しい  
 城下町、小京都と呼ばれる。この地に生  
 まれた明治の文豪・森鷗外（林太郎）が、  
 茅葺き屋根の当寺の墓地で静かに眠る。



第二十二番札所 多陀寺(島根県浜田市)  
高野山真言宗 開山・八〇六年  
奇岩と白砂が広がる山陰海岸・石見路を代表する古刹。  
浜田海岸や石見置ヶ浦の絶景が一望できる小高い山上に位置する。  
山陰海岸の落日の、得も言われぬ美しさ、荘厳さは定評がある。  
仁王門の傍に樹齡千年、天然記念物大楠が聳え、また、何処から流れ着いたのか、二十七体の流木仏が本堂に眠る。  
出雲大社  
早朝の、他に人影の無い爽やかな参道を歩き、清々しい気持ちで出雲大社に参拝。心洗われる思いに浸った。

第二十三番札所 神門寺(島根県出雲市)  
浄土宗 開山・七八一年  
出雲市最古の寺院で、巨木の森に囲まれた広大な寺領は、未知のロマンを秘める。  
弘法大師が、この寺から「いろは四十八文字」を全国に広めたことから、別名「いろは寺」と言われる。  
第二十四番札所 禪定寺(島根県雲南市)  
天台宗 開山・七二九年  
峻しい山の自然の中に建ち、山並みの眺望がすばらしく、蟬時雨が古寺を包む。  
中国・普陀山から中国の観音像が、我が国の中国地方の観音古刹三十七か寺に贈られたとのこと。日中の交流が一一〇〇年も昔に行われていたことに驚かされる。山寺の創建は、苦行修練の道に、菩提心を養うことが信仰の世界、との考えに基づいたものだった。  
第二十五番札所 鰐淵寺(島根県出雲市)  
天台宗 開山・五九四年  
鎌倉時代、武家との関係を密にして出雲大社との習合を確立し、別当寺を務めた。  
深山幽谷、長く峻しい石段を登る。  
弁慶は、当寺で十八歳から三年間修行したと言われる。八百屋お七もひっそりと眠る。

せせらぎの清流に、山女の影を見る。  
第二十六番札所・五木寛之七四 一畑寺(島根県出雲市)  
臨濟宗 開山・八九四年  
「目の薬師さま」として、全国的な信仰の広がりを持ち、境内は賑わっている。  
標高三〇〇メートルの山上に位置し、眼下に宍道湖を、遠くに中国地方の山並みを一望できる。  
第二十七番札所 雲樹寺(島根県安来市)  
臨濟宗 開山・一三二二年  
通称「子授け観音」多くの信仰を集める。  
中国・普陀山から贈られた観音像と朝鮮鐘(国の重要文化財)に、当時の海外交流が偲ばれる。  
第二十八番札所・五木寛之七三 清水寺(島根県安来市)  
天台宗 開山・五八七年  
東に霊峰・大山を望み、西に八雲の峰々が連なる景勝の地。千年杉に囲まれる境内の井戸から湧き出る清い水……「清水寺」の由来といわれる。山陰地方唯一の三重塔。  
商売繁盛、病氣平癒、家内安全の観音様として賑わう。  
第二十九番札所・五木寛之七二 大山寺(鳥取県大山町)

天台宗 開山・七一八年

修験道の道場として栄え、室町期には多くの僧兵をかかえ、比叡山、吉野山、高野山に劣らない程隆盛を極めたという。

中国地方で一番の高山・大山（日本百名山の一つ）の中腹にあり、日本一長いといわれる自然石の参道を登る。大館住職は我々を本堂に招き、般若心経に合わせ木魚を叩いてくれた。

第三十番札所 長谷寺はせでら（鳥取県倉吉市）  
天台宗 開山・七二一年

日没近い参道の石段を、約三〇〇メートル登る。暗くなると、猪が出没することもあるとか……。山麓は公園になっていて、春には花が咲き乱れる。

第三十一番札所・五木寛之七さんぶつじ一 三佛寺  
（鳥取県三朝町）

天台宗 開山・七〇六年  
標高九〇〇メートル、原生樹海に覆われる三徳山山麓に建つ。修験道の行場として開山されたのが始まりとされ、断崖絶壁の中復にしがみつくよう建つ国宝・

投入堂は、日本最古の懸崖造りで、日本的な美を表す建築として知られる。誰がどのようにして建てたのか、今も謎が残る（時間の関係で現地を見ることができなかった）。

住職夫妻が本堂に我々を招き入れて下

さって読経、写真撮影にも快く参加頂いた。

〔七月十五日〕

特別霊場 摩尼寺まにじ（鳥取県鳥取市）

天台宗 開山・八三四年頃

三〇三段の急な石段を喘ぎ喘ぎ登る。両側の繁みに安置され、菩薩の功徳を授けるといふ石仏は目に入らない。  
市内の幼稚園児五〇人位が、元気よく



石段を登ってきた。座禅体験のためとのこと。元気な園児が羨ましかった。

山頂の奥の院には、多くの遺跡があるほか、亡き人の靈魂が集まると信じられてきた。

第三十二番札所 観音院かんのいん（鳥取県鳥取市）

天台宗 開山・一六三二年

名勝に指定される林泉公園が有名で、池を囲む四季折々の眺めは絶景。

ご本尊の観音さまは出世観音と崇められ、霊験あらたなることから、善男・善女の手厚い信仰を集めている。

第三十三番札所 大雲院だいうんいん（鳥取県鳥取市）

天台宗 開山・一六五〇年

「中国観音霊場めぐり」結願寺。

本堂中央に鎮座する阿弥陀三尊、それを取り巻く形で中国観音霊場の観音像三十三体が並び、極楽浄土を表現した様は圧巻で、結願寺としての風格に感動を覚える。

仁王門の彫刻見上ぐ蝸牛かたむし （正楽寺）

雨上り本堂つつむ蓮の花 （余慶寺）

裸祭りむだ奪い合う熱気かな （西大寺）

城下町栄えし文化夏の蝶 （法界院）

高僧の生れし聖地や夏椿 （誕生寺）

深山の霊気揺るがす蝉しぐれ （木山寺）

厄除けの権現さまや梅雨晴間 （蓮台寺）

修行せし良寛像や夏木立  
 万緑の五重塔や鳶の笛 (円通寺)  
 三重塔浮かべる夏の瀬戸の海 (明王院)  
 身代りの観音の笑み南風かな (向上寺)  
 老鷺大わら草履仁王門 (浄土寺)  
 眼下に瀬戸遠くに四国雲の峰 (西国寺)  
 木下闇今を見守る禅師像 (千光寺)  
 参道や沢蟹迷ひ歩きをり (佛通寺)  
 鹿の子も人波のなか厳島 (三瀧寺)  
 遠き日の悲恋を今に蝉の声 (大聖院)  
 清流の巡る寺領や梅雨晴間 (般若寺)  
 紫陽花や巨木伐採夢の跡 (漢陽寺)  
 海わたり朝鮮鐘や夏つばめ (阿弥陀寺)  
 明治維新旗挙げの地や夕焼雲 (宗隣寺)  
 滝しぶき樹齡千年大銀杏 (功山寺)  
 武将らの眠る菩提寺蝉しきり (龍蔵寺)  
 夏空を独り占めして五重塔 (洞春寺)  
 武家屋敷昔を今に風薫る (瑠璃光寺)  
 海難を繰返すなとあいの風 (大照院)  
 (あいの風)春から夏にかけて日本海岸 (観音院)  
 沿いに吹くそよ風)  
 石灯籠主従の絆虹の橋 (東光寺)  
 鵑外や墓地に寄り添う時鳥 (永明寺)  
 落日や金波寄せくる夏の海 (多陀寺)  
 玉砂利や心洗わる夏の朝 (出雲大社)  
 道おしえ四十八文字いろは寺 (神門寺)  
 普陀山から観音像や虹の橋 (禪定寺)  
 透き通る山女の影や清水湧く (鰐淵寺)

六道湖や賑わう薬師夏つばめ (一畑寺)  
 子授けの観音いまに夏の雲 (雲樹寺)  
 霊峰を望む名利清水湧く (清水寺)  
 山滴る般若心経木魚かな (大山寺)  
 暮れなずむ石段嶮し仏法僧 (長谷寺)  
 絶壁の投入堂や夏涼し (三佛寺)  
 夏の朝三百段の試練かな (摩尼寺)  
 境内の静寂を映す夏の池 (観音院)  
 紫陽花や観音めぐり結願す (大雲院)

### 旅を終えて

お誘いを受けて何の躊躇いもなく参加させていただいたけれど、年齢的には九十歳間近かの老人、正直、体力的に、また、もの忘れなどに一抹の不安がないわけではありませんでした。しかし、同行の皆様の心遣いやお力添えに助けられて、旅を終えることができました。心から感謝し、お礼を申し上げたいと思います。四国のお遍路さんのことを耳にしていきましたが、このトシになって、それと同じような体験をすることになるうとは……。白衣を身に纏い、袈裟掛けの出立ちで古刹に参拝することも、般若心経を誦経することも初めてでしたが、見様見真似で、外見だけは何とかなったかも知れません。

最初は形だけだったけれど、回を重ねるごとに、静まり返った霊気の中で、私の心が洗われるような気持ちのみならず、充実感も感じられるようになりました。目には見えない不思議な力が働いたのでしょうか。汗だくになりながら、喘ぎながら登った最終日の摩尼寺の三百段の石段……途中で小休止した時、私は不思議な体験をしました。何と、疲れ果てて引き摺るように石段を登っていた私の脚が、それを忘れ去ったかのように突然軽くなったのです！ それからは別人のように、足取りも軽く、残りの石段を登ることができました。理由は分かりませんが、体力的に限界に達すると、不思議な力が湧き出ることがあるのでしょうか。この時、「修行」という言葉が脳裡を駆け巡るのを覚えました。

七日間、東京から山口まで二七〇〇キロの長い道程を、お一人でマイカーを運転して、四十一か寺の観音めぐりを計画通り実施していただいた超人・雨宮氏には、感謝・感謝です。心に残る、楽しい有意義な旅行ができたのは、同行の皆様「支え」があったればこそ。重ねて御礼申し上げます。



都市の水辺を守る

北京を流れる河や池が以前の臭い水路から年々緑の清流に姿を変えていることに気が付く人も多いだろう。変化の背景には河川保護、監視に従事する人々の日々の努力がある。

朝9時、東五環状道路付近の通惠河高碑店貯水池の水面でオレンジ色の点が幾つかゆっくり動いている。よく見ると河川保護員の救命胴衣だ。棹の長い網じゃくしで、水面をさらう。1回目の作業は夜明けから始まり

8時前に終わる。これはこの日2回目の作業だ。川岸では集められたポリ袋やペットボトルなど生活ごみ、枯れ枝、水草、残渣などが陸に上げられ、トラックで運ばれる。1日の作業で集まるごみは60立方メートルにもなる。

通惠河管理所の呂副所長によれば、通惠河は全長15・08キロメートル、支流水路は9・18キロメートルで、これを52名が交代で保護、清掃にあたっているという。2017年に担当区域で出たごみは2万5千立方メートルだ。

11時過ぎ、橋の下の水草の陰に沈んだシェアサイクルが見つかる。今日は3台目だ。沿岸には水から引き上げた自転車の集積所が点在、合計100台以上が積まれている。昨年下半年だけで川底から上げられた自転車は404台、今年は最初の2か月で500台が見つかった。1年前からシェアサイクルが目立つようになり問題が深刻化、水深が深い部分では何台も重なっ

てようやく発見されるという。

重いシェアサイクルの引き上げには人手と時間をとられる。さらに引き上げた自転車の行き場が見つからない。「シェアサイクルの運営会社に電話して、撤去を要請したが、彼らは『不要だから放置しておけ』と言う。廃業した運営会社もある」。撤去、運搬に割く人員はない。移動先もない。市街地に放置すれば街の環境衛生部門の負担になるだけの八方ふさがり。市民には公共物を大切にしてほしいし、関係機関には責任と向き合ってほしいと呂副所長。

水質が改善されて釣り人が増えた。それは環境の改善の証明ではあるが、複雑な心境だ。時々作業を邪魔だと言われるからではない。環境保護の観点からみれば、水の浄化に役立っている魚を釣ったり、ゴミを捨てたり、死んだ魚を川岸に捨てたりという釣り人の行動は自然や水質に悪影響を与えるからだ。ある意味釣り人と捨てられたシェアサイクルは、まさに北京

の水辺の環境が直面している問題の縮図である。回復された環境を楽しみながら、同時に環境の破壊者になっている市民がいるということだ。

だがこの2つはまだ目に見えない。厄介なのは見えない破壊者だ。川には雨水と汚水が流れ込む水路があり、雨水は直接川に流れ込む。誰かが雨水の排水溝に汚染物質を捨てたら、雨は都市の汚れを洗い流すが、川は直接汚染される。水辺環境保護には市民一人ひとりや社会の理解と協力が不可欠なのだ。

〔北京晩報〕2018年3月29日

第三者決済の未来

ウォルマートは微信ペイと決済およびビッグデータの経営利用に関する業務提携を行うことになり、3月15日より華西地区（雲南、四川、貴州、重慶）の91店舗でアリペイ（支付宝）での支払いの受付を停止した。ネット上では「独占反対」「不当競争だ」「消費者軽視」と反発する消費者の声が広がっている。

ウォルマートは、これは経営戦略上の決定であると発表。微信支付を運営するテンセントHDはウォルマートの選択を尊重し、信任が得られるように努力すると発表した。アリペイを運営する蚂蚁金融サービスはノーコメントとしている。

法律の専門家らによれば、法的には決済方法の選択は企業の自由であり、ウォルマートがアリペイとの契約に違反していなければ問題ないという。独占禁止法に抵触するかどうかは断定が難しく専門家の中でも判断が分かれる。しかし、消費者の選択の自由を奪うのは問題で、ウォルマートの企業イメージが落ちるのは否めないという。

アリペイも微信支付も我が国で発展した電子決済を牽引するシステムだ。一方だけの生き残りを図る道は望ましくない。3月末に開かれた中央銀行の会議でもデジタル通貨の研究開発を促進するという議題が話し合われている。これが実現すれば現金を持ち歩く必要のない社会が

現実味を帯びるであろう。

〔検察日報〕2018年4月4日

## 都市を支える人々

国務院農民工弁公室、全国家庭サービス業弁公室の主任で、人力資源と社会保障部の副部長である邱小平氏はセミナーで農民労働者の権利保護と家庭サービス業の発展促進に引き続き尽力すると述べた。2017年の全国農民労働者は2億8千7百万人と、2012年に比べ2391万人増加。毎年1・8%の増加となる。都市部戸籍人口は2012年の35%から、2017年の42・35%に伸び、8千万人の農業人口が都市部に移転した。家政サービス業については2016年営業総額は3498億人民元、従事者数は2542万人で前年比金額で26%、人数で9・3%伸びている。

今後の政策の重点は、農民労働者の都市における権益を保障し、都市定着を図ること、家政業については企業化の促進と規範化、家政サービスを職業とし

て確立することにあるという。

〔人民日報〕2018年4月4日

## 聴覚障害者に法の光を

唐帥氏は手話に精通した弁護士。重慶市大渡口区鼎聖法律事務所の弁護士だ。両親とも聴覚障害者だったため、手話だけでなく障害者の気持ちがわかる。2016年に手話通訳者の資格をとり、2012年弁護士の資格をとった。彼は聾学校で教え

られる、障害者聯合協会が推奨する手話と、障害者が日常の中で培ってきた自然手話の違いが標準語と広東語ほど違うこと、そのため訴訟において意思の疎通ができず、障害者が権利や義務の行使を保障されていないことを問題提起している。また、手話通訳の多くが手話に精通していても法律の理解がないために、元より専門知識の乏しい障害者に十分に情報を伝えられない場合もあるという。極端な例では、手話通訳が窃盗嫌疑者の「盗んでいない」という手話を「盗んだ」と訳したビデオ

も見たことがあるという。

唐氏は「無声世界代言人」という宣伝動画により、国内唯一の手話弁護士として一夜にして

全国の聴覚障害者に知れ渡る存在になった。唯一ではないかもしれないが、確かに少ないようだ、と唐氏。名前が世に知られると氏のSNSには1万人、200以上のグループが登録、さまざまな相談が寄せられている。事務所は聴覚障害のある大卒卒業生5名を採用、彼らに法的知識を学ばせ戦力としている。弁護士が手話を学ぶよりも現実的だからだという。

唐氏は手話通訳協会設立構想を持ち、重慶市の人民代表大会、政治協商会議に意見書を提出している。手話通訳者に法律、医療、コンピュータなどの専門知識の研修を行い、弁護士と相談者の橋渡しとするというものだ。全国には2千万人の聴覚障害者がいる。重慶から始め、全国に広げたいという。

〔北京青年報〕2018年4月8日

コラム

## 腰折れ文〈十〉

渡邊澄子（会員）

「北の桜守」観てきました。演劇を導入した映画の手法で、期待したほどではなかった。今回も話したい事が多すぎて……。仕方なく簡略にかいつまんで。

まず、連日報道の加計・森友・日報問題。抗議の集會に四月十四日、五万人が国会前に、その他の地でも随所で開催されたという。次々に文書が出てきて、常識ではもはや安倍政権は絶体絶命だが、安倍氏一派は厚顔で手強い。愛媛県の職員の文書に嘘を書く理由も必要もないのに否定している。優秀な最高級官僚が記憶に無いなんて！ 百歩譲って記憶喪失していたとしてもその場をノットしたもののほうが確かだ。野党の昭恵氏証人

喚問要求に、首相が妻の代弁は私がすると言ったが、妻の人格無視ではないか。彼女は名誉職五十五という。首相の妻の権威の妻さには驚くが、それほど力量がある人ならば堂々と国会で証言すれがよい。公文書や資料の改竄・隠蔽が次々発覚しても責任をとろうとしない政治の世界に怒り心頭だが、それが続きすぎて慣れてしまうのを心理学では「馴化<sup>じゆんか</sup>」という（香山リカ「琉球新報」）。墮落しきった公僕を擁する米国追隨の政権支持者が結構多いのは馴化現象なのだろう。

米軍普天間飛行場の返還合意から二十二年になるが米軍機の離着陸が繰り返され事故が頻発し、騒音は激化しているが、地位協定に阻まれて県民は命の危険にさらされていても、政府は法治国家と言えぬ対応で、辺野古基地推進を強引に進めている。沖縄県民の怒り、不安、苦悩を思うと、戦争末期、人柱にしたのにその犠牲に対する反省も謝罪も賠償も無く人柱続は、政府も国民多数も「馴化」しているからか。

米英仏がシリアの化学兵器関連施設を攻撃強行したが、アサド政権が化学兵器を使用した明確な証拠や国連安全保障理事会の決議はなく、法的根拠も乏しく正当性を欠くという。安倍氏は軍事攻撃に賛成しているがトランプという人が不得要領で大統領になったのが私には腑に落ちず信頼を欠く。プーチンの場合にも言える。76・66%の得票率で四選圧勝だったが、投票所では一人が票を四枚も五枚も受けとって投票している場面が堂々

とテレビに映し出されていて、開いた口が塞がらない不正選挙だ。ロシアって、これ平気？ 茶飯事？ モリ・カケ事件で不正が罷り通っていたことを知らされたがロシアを笑えない酷さだ。京大や法政などは拒否したが軍事研究に奨学金や補助金を出す政府の露骨な施策は文系排除の背面での軍事費激増と相俟って日本の行路への危惧感が増幅される。

人の命よりも女人禁制の相撲の伝統が大事とは何てこと！ 「昨年十月 待機児童五万五千人」の記事下の広告に「真子さまデート厳禁！ 小室家警備員月額七百万円のお然 これって血税！」には、えっと声をあげてしまった。税金の使われ方ここだわってしまう。ご逝去後も関連記事がずっと載り続けている水俣病患者と共苦し続けた石牟礼道子さんへの哀悼の念を結語とせざるを得ない。

し、騒音は激化しているが、地位協定に阻まれて県民は命の危険にさらされていても、政府は法治国家と言えぬ対応で、辺野古基地推進を強引に進めている。沖縄県民の怒り、不安、苦悩を思うと、戦争末期、人柱にしたのにその犠牲に対する反省も謝罪も賠償も無く人柱続は、政府も国民多数も「馴化」しているからか。

# 陶々俳壇

ようよう

兼題「蝌蚪」「民」  
席題「落」

春愁や友を思ひて一人酒(京) 佐藤若杉

二極化の民あると聞く四月馬鹿 〃

春眠や吾を惰民と言ふなかれ 大内善一

○蝌蚪の群岸に日の斑のゆれ通し 〃

お隣の小さなお池蝌蚪の群 上野京

北京にも桜満開便りあり 〃

☆ 振り返りふりかへり行く入学児(善)(まも) 岡和水

○日輪を転がす磯の遊びかな(由紀子)(南山) 〃

千鳥ヶ淵外人客と花の中 長野宏太

豊かなる水の地球や蝌蚪生るる 〃

孫の進路理系と決めて蝌蚪生るる(紅杓) 戸部まもる

○病院のなだらかな階春日さす(宏太) 〃

草深き池の岸辺や蝌蚪の紐 橋本紅杓

冬空へ幹まつすぐにメタセコイヤ 〃

○そそくさに煎餅遣りぬ孕み鹿 鈴木南山

濫民に砂時計あり啄木忌 〃

老犬の追ふフリスビー飛花落花(和水) 馬場由紀子

メビウスのことなど知らぬ蝌蚪の紐 〃

☆ 最高点 ○ 由紀子選 ( ) 各特選

## 選後評

馬場由紀子

飽きもせず蝌蚪浮き沈み陽は西に 和水  
「飽きもせず」お玉杓子は水の中を、上に下に前後左右に泳いでいる。その様子を作者は「飽きもせず」眺めている。無村の「菜の花や月は東に日は西に」を想起させ、より一層の広い景を読み手に想像させる。

泰山木花は落ちてても凜として 宏太  
芳香を放つ初夏の花である。花は普通「散る」と表現するが、掌を覆い尽くす程に広い泰山木の花弁は「覆るる」が相応しいのかも。しれない。茶色くなって散っていく泰山木ではあるがその中でも凜としたものを作者は捉えている。

寒椿雪かぶりても凜として 京  
晩冬の句である。この冬は雪に悩まされた日本であったが、作者は冬籠りの間に句をいくつも作られていたようだ。八十を過ぎて初めて俳句を作られているとは思えない、新鮮さが伝わってくる。

師の恩や池の端に蝌蚪追ひしころ 南山  
小学校の頃を思い出されたのであろうか。そうだとすると、もう半世紀以上昔のこと。今と違って不便な世の中ではあったが、自然に恵まれ、そして人情に恵まれていた。

花筏落花重ねて濃くなりぬ 紅杓  
水面に散り重なる花弁を一心に見つめる作者。その時花筏の色の变化に気づいた。白いとばかり思っていた花筏が、重ねれば重なるほどますます赤みを帯びた花の色を濃くしていく。俳人らしい発見である。

武者のごと老樹枝張り飛花落花 善一  
日本人は昔から樹木に精霊が宿ると考えてきた。作者が見えたこの老樹はかなりの歌舞伎者のようだ。見得をほら、老樹は頻りに花を飛ばしている。作者も老を感じさせない数奇者である。老樹と作者には一脈通じるものがあるようだ。

花筏水門に触れ渦を巻く まもる  
花筏が水面を揺蕩っている。花筏の流れはゆったりとした時間の流れでもある。ところが水門に触れた瞬間に流れは渦を巻き、花弁もその渦に飲み込まれてしまった。

今まさに手足出さむと蝌蚪の國 若杉  
休みなく動いている蝌蚪も足が出て手が出て、尻尾が無くなる立派な蛙だ。群をなしていた蝌蚪の国の住人も蛙に成長したらそれぞれ独立していき、独立自尊の生き方を問われることになる。

あと十年、  
これからをどう生きるか

橋本公佑

山寺立石寺を訪ねる機会を得て仙台駅からバスでふもとまで行き登山口より山寺を散策しました。芭蕉の蟬塚をみて石段を登り奥の院に詣でます。芭蕉は閑さや岩にしみいる蟬の声を「おくのほそ道」に残しています。

現代の日本では平均寿命は八十歳を超え、さらには百歳をも射程に入ると芭蕉の頃は「人生五十年」でした。芭蕉は晩年を如何に生きるかを真剣に考え実行に移したからこそ、晩年が花開き結実したといわれています。

有名な句ばかりですがあえて以下に紙面の許す限り挙げてみます。

李白の文を踏まえた「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり」の書き出しに始まり、奥州・北陸への旅立ちに船に乗り見送ってくれた人々に干佳で

行く春や鳥啼き魚の目は泪  
平泉「高館」の義経の居城跡では  
夏草や兵どもが夢の跡

山形立石寺を経て大石田では  
五月雨を集めて早し最上川  
酒田、出羽三山、象潟を経て日本海を南下して佐渡島を眺めて

荒海や佐渡に横たふ天の川  
一振りでは遊女と出会ひ

一家に遊女も寝た日萩と月  
金沢、山中温泉、永平寺を経て氣比神宮に詣で大垣にたどり着き

蛤のふたみに別れ行く秋ぞ  
の句をもつてこの紀行を結んでいきます。

# カホ公通信

## ◆平成30年4月度の理事会から

5月24日開催の「第7回定時社員総会」を前にして、第1号議案・平成29年度事業報告、第2号議案・平成29年度決算案、第3号議案・役員改選等について討議された。また、この総会までのスケジュールや資金繰り、会員異動状況なども活発に議論された。特に正会員については、3月末現在164名(昨年:163名)で、平均年齢は、75・3歳(昨年:75・8歳)でほぼ横ばいの状況であるが、80歳以上の会員は42%を占め、70歳以上の会員で見ると、76%を占める現状から、会員の若返りの課題はなかなか難しいことを改めて共通認識をした。また、この1年間で、新入会員は12名増えているが、高齢で逝去されるとか、病気で動けなくなるという理由で退会される方が後を絶たず、なかなか絶対値が増えない理由となっている。

## ◆「東京湾クルージング見学会」

丁度3年前に一度実施し、今回は2回目となる。開催理由としては、その後新会員が増えたこと、東京港や臨海副都心のその後の変貌を見たいとの声に推され、何よりも「楽しいこと」をもっと

企画すべきとの会員の要望も後押ししている。総勢60名の申し込みがあったが、当日のスケジュールは下記の予定である。  
①日時は、6月28日(木曜日)午後1時②集合場所は、「竹芝小型船ターミナル(新橋から、「ゆりかもめ」で2駅目「竹芝駅」から徒歩5分)③出船は、午後1時30分、「新東京丸」に乗船し、約1時間30分の視察コース ④参加費:無料 ⑤基本的には、下船後流れ解散の予定。

## 会員だより

### ◎訃報

伊東明氏(87歳)  
平成30年1月24日逝去  
謹んで哀悼の意を表します

## 同好会だより

〈一石会〉  
4月囲碁例会優勝 田畑光永氏  
〈謡曲会〉  
6月19日例会 実施予定曲目

曲目	役割	地頭
鶴飼	シテ鶴川 ワキ村瀬 ワキツレ宮下	堀野
賀茂	シテ澤村 ツレ堀野 後ツレ土屋	鶴川
天鼓	シテ土屋 ワキ鶴川	宮下

## みんなの写真館

### オックスフォード大学の庭園(表紙)

オックスフォードは大学のキャンパスが広がる古い学園都市だけに、街の中心部は中世に建造された伝統豊かな建物に溢れていた。大学は40校近いカレッジを持ち、それぞれが学生寮の機能と大学授業の一部を担う。オックスフォード駅に隣接するエクセター・カレッジは14世紀に建てられ、その歴史の重みが、運河に繋がる幾つかの湖沼を持つキャンパスに広がっていた。小さな運河はテムズ河の支流であり、数十キロ流れ下ると首都ロンドンに至り、大きな河口は古い有名な港町を要している。エクセター・カレッジの水と緑が映える庭園の一角で、日本人卒業生の結婚記念写真が撮影されていた。普段は許されない光景だと言ったが、東洋の果てからやって来た卒業生への付度があったのかどうかは定かではない。撮影を引き受けた3名は写真家、美容師、プロモーターとして活躍している。近年とみに海外でも活躍する日本人女性に目を瞑ることが多い。(瀬崎明)

### 北斉の高長恭「蘭陵王」を舞う(表4上)

この写真は、平成24年に奈良時代、平安時代の舞様式を留める蘭陵王の舞譜を解説復元し公演を行った時のものです。蘭陵王とは、中国南北朝時代、北斉の皇子であった高長恭のことで、并州刺史として北周や異民族と対峙し、その勇猛ぶりが天下に知られていました。また、美しい顔立ちでも名高く、これを隠して面をつけて戦に臨んだとされています。

その武勇伝は舞楽に描かれ、唐代に日本にも伝わり雅楽の代表的演目となっています。(長谷川景光)

### 厳島神社(表4下)

荒波にもめげずに凜として立ち続ける大鳥居を潜り、海に浮かぶ神社として有名な厳島神社に参拝。参道で鹿に囲まれて、餌をねだられたことを思い出す。鹿は、人間を餌を与えてくれる仲間と思っているのか、人懐かしく親近感が感じられ、その大きく澄んだ眼が印象的だった。参拝客を歓迎してくれる鹿は、人々に宮島へ足を運ばせる役割の一翼を担っているのかも知れない。(岡和良)

## 2018年6月の行事予定

- 1日(金) 14:00 ○公開「近現代史講座」第16回  
講師大日方純夫氏(早稲田大学教授)  
『日本近現代史を読む』「第19章 敗戦」
- 5日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 5日(火) 18:00 ◎公開アジア研究懇話会  
「進化する日本農業現場長期調査、そして中国農村の現実と展望」  
林燕平氏(中国社会科学院研究員、中国貧困農村研究家)
- 6日(水) 13:00 俳句会  
投句の場合は兼題「ラベンダー、信」及び当季雑詠
- 8日(金) 11:00 一石会囲碁例会
- 12日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 19日(火) 13:00 謡曲会例会
- 21日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会  
「激変する北東アジアと中国・日本」  
朱建榮氏(東洋学園大学教授)
- 26日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 28日(木) 13:00 東京湾クルージング見学会(集合時間厳守)

### 6月の会議予定

- |  |              |  |
|--|--------------|--|
| <p>1日(金) 14:00 東北委員会</p> <p>4日(月) 14:00 環境委員会</p> <p><u>5日(火) 15:00</u> 講演委員会</p> <p><u>      "      15:00</u> 広報委員会</p> | <p>.....</p> | <p><u>7日(木)</u> 14:00 理事会(第4回)</p> <p>12日(火) 14:00 国際交流委員会</p> <p><u>15日(金)</u> 13:00 諮問会(第2回)</p> |
|--|--------------|--|

※会員外一般聴講者の参加費は、◎印：1000円、○印：500円、無印：無料です。  
※下線は通常日程に変更あり



# みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<http://www.kokusaizenrin.com>

ISSN038610345  
二〇一八年(平成三十年)六月一日・毎月一日発行

「善隣」第四九二号(通卷七五九)

発行所 〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五  
一般社団法人 国際善隣協会  
電話 〇三三五七三三〇五(番代表)